

国立国語研究所学術情報リポジトリ

Ⅱ.1.2. 場面1(2)：ぶつかったときの対応

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2019-11-29 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 水谷, 修 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.15084/00002333

Ⅱ.1.2. 場面 1 (2) : ぶつかったときの対応

早田 美智子

Ⅱ.1.2.0. はじめに

Ⅱ.1.2.1. 「場面 1」と分析の方法

Ⅱ.1.2.2. 自分がぶつかったとき - 一般的な行動意識

Ⅱ.1.2.2.1. 日本での行動

Ⅱ.1.2.2.2. 対照国での行動

Ⅱ.1.2.2.3. 日本および対照国での行動の比較

Ⅱ.1.2.2.4. 現住国で行動を変えるか

Ⅱ.1.2.2.5. 謝るときに何を気にするか

Ⅱ.1.2.3. 無謝罪に対する印象

Ⅱ.1.2.3.1. 無謝罪の印象 - ビデオ場面

Ⅱ.1.2.3.2. 無謝罪の印象 - 対照国の場合

Ⅱ.1.2.4. ビデオ場面の謝罪について

Ⅱ.1.2.4.1. 謝罪の表現は適当か

Ⅱ.1.2.4.2. 謝罪の表現に過不足はあるか

Ⅱ.1.2.4.3. 不適當, 過不足の内容

Ⅱ.1.2.5. 日本の謝罪行動と対照国の謝罪行動

Ⅱ.1.2.5.1. 同じか, 違うか

Ⅱ.1.2.5.2. どちらが丁寧か

Ⅱ.1.2.6. 身体的接触のとらえかた

Ⅱ.1.2.7. 残された問題

Ⅱ.1.2.0. はじめに

この章では、前章と同様、通路での接触場面を扱う。「場面1」は、日本のマンションの廊下で年配の女性と反対側から走ってきた若い女性が、すれ違うときにぶつかるという場面で、ここにはぶつかられた側の抗議と、それに対するぶつかった側の謝罪という、大きく分けて2種類の言語行動が現れる。このうち、前章では「抗議」について考察した。本章では「謝罪」について述べる。場面の詳細及び被調査者の属性については、Ⅱ.1.1.1.を参照していただきたい。

Ⅱ.1.2.1. 「場面1」と分析の方法

「場面1」のビデオに現れるのは、見知らぬ者同士の廊下でのぶつかりである。分析を行うにあたっては、男女、年代、職業、現住国滞在年数、現住国の人との接触の度合い等、さまざまな比較があり得るが、今回は基本的に、質問項目に沿って、対照5ヶ国に住む在外日本人および東京在住国内日本人と、対照国5カ国出身者で現在日本に住んでいる在日外国人(注1)の各グループを比較し、分析した結果を報告する。グループ以外の要素による比較は、今後の分析に譲ることとしたい。

ここで扱う、ぶつかった側の行動についての調査項目は、(1)ぶつかったときにどのように行動するか、(2)ビデオの登場人物の謝罪行動をどのように感じるか、(3)日本と対照国の謝罪行動に違いはあるか、(4)日本と対照国の身体的接触の捉え方に違いがあるか、に大別できる。さらに、(1)については、日本と対照国で被調査者自身がぶつかった際の行動、および被調査者から見た現住国の人の行動がそれぞれ回答され、(2)では、ビデオ場面についてと、同様の場面が対照国で起きた場合についての印象がそれぞれ述べられる。

(3)(4)では、日本と対照国を比較した回答がなされている。

以下、Ⅱ.1.2.2.は、(1)について、Ⅱ.1.2.3., Ⅱ.1.2.4.では、(2)の、観察者として登場人物の行動を見た印象と評価についての分析結果を述べる。Ⅱ.1.2.5., Ⅱ.1.2.6.では、(3)の日本と対照国の謝罪行動、および(4)の身体的接触の捉え方について比較した結果を述べる。身体的接触の捉え方についての質問項目は、前章「ぶつかられたときの応答」の分析項目とも関連する。

なお、日本人を対象とした調査と外国人を対象とした調査で、質問文が異なる場合には、それぞれ「日本人調査／外国人調査」のように示した。「在日ブラジル人」などの外国人グループの名称は、特に必要がない場合には単に「ブラジル人」のように示した場合がある。また、コメントを列挙する際は、日本人の場合には○を、外国人の場合には●をつけて示した。

Ⅱ.1.2.2. 自分がぶつかったとき — 一般的な行動意識

まず、被調査者自身がぶつかったとしたら、どのような行動をとるかについての回答から見ていく。この段階ではまだビデオ場面を提示しておらず、したがって被調査者は、口頭での説明によって、ぶつかった状況を日本と対照国それぞれの場合について想像し、回答することになる。質問文は以下の通りである。

【質問文】

はじめに、まずビデオはお見せしないで一つお聞きします。

1.0.1. [日本・東京／母国] で、たとえばビルの廊下を歩いていて、まったく見ず知らずの[人／母国の人]とすれちがう時のことを思い浮べてください。ご自分（あなた）が急いでいたせいで、相手に体をちょっとだけですがぶつけてしまいました。そんな時、ふつうどんな風に言葉をかけますか？ なにか決まった身振りはありますか？ 表情は？

1.0.2. では、こんどは、[この国で／日本で]のこととして考えてください。同じですが、ビルの廊下を歩いていて、まったく見ず知らずの[この国の人／日本人]とすれちがうときのことです。自分（あなた）が急いでいたせいで、相手に体をちょっとだけですがぶつけてしまいました。そんな時、ふつうどんな風に言葉をかけますか？ なにか決まった身振りはありますか？ 表情は？

リストは1.0.1., 1.0.2. 共通

【日本人用】①とくに、何もしない。

②会釈するくらいで、言葉には出さないで謝る。

③「どうも」くらいの簡単な言葉で謝る。

④「すみません」「ごめんなさい」など、少し丁寧な言葉で謝る。

⑤その他

【外国人用】①とくに、何もしない。

②言葉には出さないであやまる。すこし頭を下げるくらい。

③かんたんな言葉であやまる。日本語でいえば「どうも」くらい。

④少していねいな言葉であやまる。

日本語でいえば「すみません」「ごめんなさい」など。

⑤その他

この調査は、基本的にはビデオ刺激を用い、そこに現れる具体的な状況について質問する形で行われるが、口頭で説明することにより、一般的な行動を尋ねる項目もいくつかある。この質問もその一つであるが、特に、[1.0.1.]の母国での行動を尋ねる質問と、[1.0.2.]の現住国での行動を尋ねる質問の2項目は、ビデオを見る前になされるという点で、ぶつかり場面の具体的な映像の影響がない分、より意識調査的な側面が強い項目であるといえる。[1.0.1.]は日本人に対しては母国である日本でのこと、外国人の場合は対照国でのことを尋ねる質問であり、[1.0.2.]は、逆に日本人に対しては現在滞在している対照国、外国人には日本でのことを尋ねる質問となっている。回答はリストの選択肢からなされる。この2項目および後述する[1.1.3.]の質問には、選択肢を選ぶ際に「③か④」「③と④の間」「男性は②で女性は④」のような複数回答が見られた。ここでは、例えば「③か④」なら③と④を、それぞれを1つとして数えたため、選択肢ごとの回答数の合計が回答者数を上回っていることがある。複数回答によって述べられている事柄、特に男女や目上目下に対しての行動の違いへの言及は、それ自体重要な分析上の観点であるが、今回はこれらの回答を生かすことができなかった。またデータでは、質問に対して回答が得られなかった場合を「無回答」、何らかの理由でその部分の調査を行わなかった場合は「無調査」として区別してあるが、ここでは質問したにもかかわらず回答が得られなかった「無

回答」ともともと調査自体を行わなかった「無調査」を一括して「無回答」として扱った。

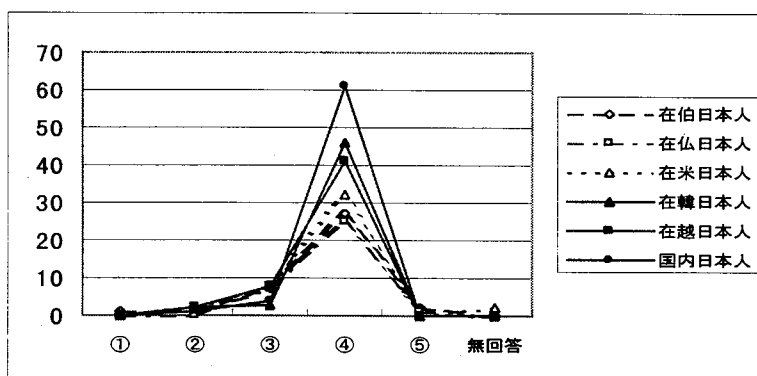
Ⅱ.1.2.2.1. 日本での行動

はじめに、日本で自分が相手にぶつかった場合にどう行動するかを見ていく。設問番号は、前述したように[1.0.1.]が母国での行動を尋ねる質問、[1.0.2.]が現住国での行動を尋ねる質問となっているので、ここでは日本人の[1.0.1.]への回答と外国人の[1.0.2.]への回答を比較することになる。前節の質問文に示すように、「⑤その他」を除けば、選択肢は4つとなる。そのうち①は、何の行動も起こさない、という回答である。②から④については、いずれも謝るという回答であるが、②については言語化しないで謝る場合、③と④は、いずれも言語化するが、その際の丁寧度に違いがあり、①から④に行くにしたがって、表現上はより積極的な行動になる。日本の基準でいえば、一応は丁寧さの度合いの順として考えることができよう。結果は以下に示す通りとなった。

図表Ⅱ-1-2-1a 日本での行動（日本人・外国人）

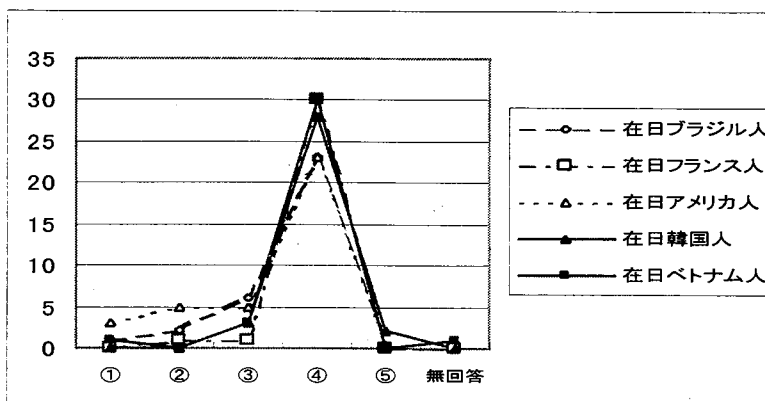
単位 人

	①何も	②会釈等	③簡単	④丁寧	⑤その他	無回答		①何も	②会釈等	③簡単	④丁寧	⑤その他	無回答
在伯日本人	1	1	7	27	2	0	在日ブラジル人	1	2	6	23	0	0
在仏日本人	0	0	7	25	1	0	在日フランス人	0	1	1	30	0	0
在米日本人	0	2	8	32	0	2	在日アメリカ人	3	5	5	23	0	0
在韓日本人	0	2	3	46	0	0	在日韓国人	0	0	3	28	2	0
在越日本人	0	2	8	41	0	0	在日ベトナム人	1	0	3	30	0	1
国内日本人	0	1	4	61	0	0							



図表Ⅱ-1-2-1b 日本での行動（日本人）

単位 人



図表Ⅱ-1-2-1c 日本での行動（外国人）

単位 人

日本人では、どのグループでもほぼ同じ形となった。いずれも「④少し丁寧な言葉で謝る」が多く、他は少ない。国内日本人は、④の比率が高くなっている。外国人については、アメリカ人に①②③が見られることが注目される。ブラジル人でも③が他のグループよりもやや多い。しかし、全体的なパターンとしては、各グループとも日本人の回答と大きな違いは見られない。日本でぶつかった場合には、日本人でも外国人でもほとんどが「④『すみません』『ごめんなさい』など、少し丁寧な言葉で謝る」と意識しているといえよう。

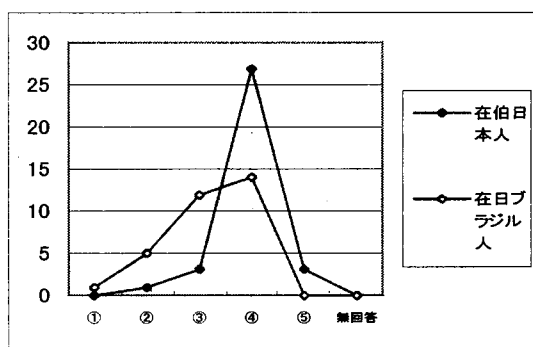
Ⅱ.1.2.2.2. 対照国での行動

次に、対照国ではどのように行動するかを国別に見ていく。日本人では現住する外国、外国人では母国での行動のしかたを見ることになる。日本での行動の比較と同様、[1.0.1.]が母国での行動を尋ねる質問、[1.0.2.]が現住国での行動を尋ねる質問となっているので、ここでは日本人の[1.0.2.]への回答と外国人の[1.0.1.]への回答を比較することになる。

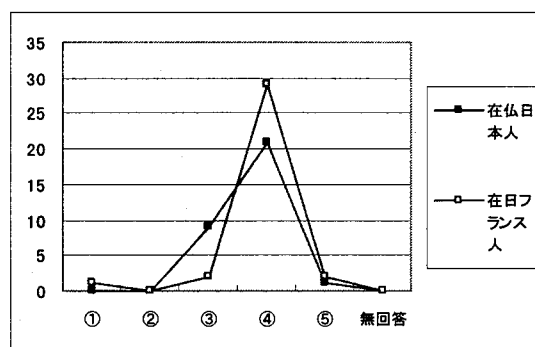
図表Ⅱ-1-2-2a 対照国での行動（日本人・外国人）

単位 人

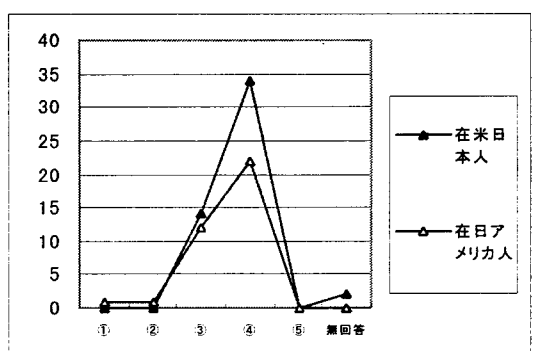
	①何も	②会釈等	③簡単	④丁寧	⑤その他	無回答		①何も	②会釈等	③簡単	④丁寧	⑤その他	無回答
在伯日本人	0	1	3	27	3	0	在日ブラジル人	1	5	12	14	0	0
在仏日本人	0	0	9	21	1	0	在日フランス人	1	0	2	29	2	0
在米日本人	0	0	14	34	0	2	在日アメリカ人	1	1	12	22	0	0
在韓日本人	11	6	3	36	0	0	在日韓国人	0	3	12	16	1	0
在越日本人	13	10	13	19	3	0	在日ベトナム人	1	2	12	23	0	0



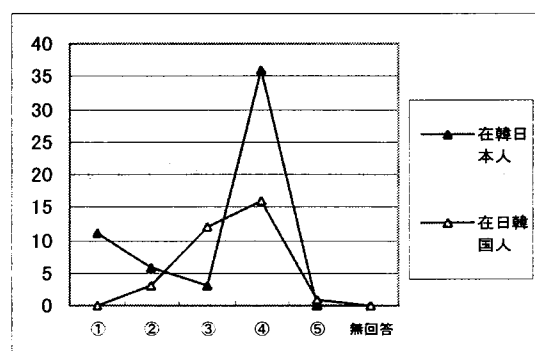
図表Ⅱ-1-2-2b ブラジルでの行動



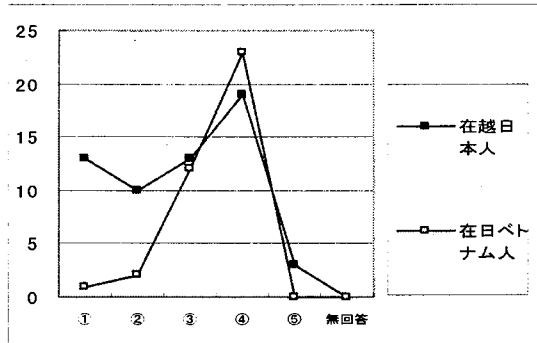
図表Ⅱ-1-2-2c フランスでの行動



図表Ⅱ-1-2-2d アメリカでの行動



図表Ⅱ-1-2-2e 韓国での行動



図表Ⅱ-1-2-2f ベトナムでの行動

対照国では国による違い、また同じ国でも日本人、外国人による行動の違いが現れた。ブラジルについては、ブラジル人の回答が、「④少し丁寧な言葉で謝る」と「③簡単な言葉で謝る」に分かれ、②の「言葉には出さないで謝る」も現れているのに対し、日本人の回答は、④の「少し丁寧な言葉で謝る」に集中している。フランスでは逆に、フランス人のほとんどが④と回答し

ているが、日本人では④と③に回答が分かれる傾向が見られる。アメリカについては、日本人の方に、より④が多いという傾向はあるものの、回答のほとんどが④か③で、類似のパターンを示した。ブラジル人に、②③という回答も他より多く見られるものの、全体的にはこの3カ国では、日本人・外国人ともに言語化して謝るという点で共通している。その際の謝り方としては、ブラジルとアメリカでは、在日ブラジル人・在日アメリカ人より、両国に在住する日本人の方が言語形式上の丁寧度が高く、逆にフランスでは、日本人より在日フランス人の方が、丁寧度が高い謝り方をするという結果になった。

韓国とベトナムについては、日本人・韓国人・ベトナム人それぞれの回答パターンに注目すべき違いが見られた。韓国では、日本人の回答には「④少し丁寧な言葉で謝る」が一番多く、その点からいえば、日本でのパターンと共通する。しかし、二番目に多いのが、①の「とくに何もしない」であり、回答が二極化する傾向が現れた。一方、韓国人では、④③の、言語化して謝るとした回答が多く、①は現れない。形としては、④と③が拮抗しており、ブラジル人のブラジルでのパターンと類似している。ベトナムでも、日本人の回答は、④が一番多いものの①②③もそれぞれかなりあり、①から④に回答が分散している。一方、ベトナム人では、「④少し丁寧な言葉で謝る」が一番多く、③が④の約半数となっていて、①②はほとんど見られない。日本人の行動が①から④に分散するのに比べ、ベトナム人は、ベトナムでの行動としては言語化して謝ることが多く、なおかつ、その際の言語形式上の丁寧度も高いと考えているという結果となった。この両国においては、日本人と韓国人、ベトナム人の回答パターンが大きく異なっている。図表Ⅱ-1-2-1の、日本で「少し丁寧な言葉で謝る」とした割合が、在伯・在仏・在米日本人よりも多かった在韓・在越日本人の行動が、現住国である韓国・ベトナムでは、謝罪行動として消極的な方向に動くことは注目される。

Ⅱ.1.2.2.3. 日本および対照国での行動の比較

次に、その国に滞在している人が、その国の人々の行動をどのように見ているかについての質問を取り上げる。質問項目[1.1.3.]は、ビデオ場面で、二人の女性がぶつかったところまで（『ビデオ刺激による言語行動意識調査報告書 資料編』p.1「刺激ビデオ場面シナリオ」参照）を音を付けずに提示した後、いったんビデオ場面から離れて一般的な質問をしている箇所である。質問文は次ページに示す通りである。一般的なことについて質問しているという点では[1.0.1.][1.0.2.]と共通するので、ここではこの3つの項目

を比較しておくことにする。

【質問文】

1.1.3. [この国の人同士が／日本で日本人同士が]ぶつかったとして、[ぶつかった側の言語行動について、この国の人／ぶつかった側の人]は、どういう行動をすることが多いと思いますか？

リスト

【日本人用】 ①とくに、何もしない。

②会釈するくらいで、言葉には出さないで謝る。

③「どうも」くらいの簡単な言葉で謝る。

④「すみません」「ごめんなさい」にあたる、少し丁寧な言葉で謝る。

⑤その他

【外国人用】 ①とくに、何もしない。

②言葉には出さないであやまる。すこし頭を下げるくらい。

③かんたんな言葉であやまる。日本語でいえば「どうも」くらい。

④少しいねいな言葉であやまる。

日本語でいえば「すみません」「ごめんなさい」など。

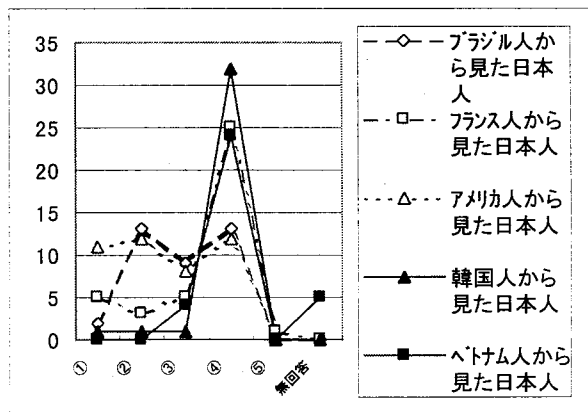
⑤その他

まず、日本人の行動から見ていく。在日外国人が回答した日本人の行動は、図表Ⅱ-1-2-3に示すようになった。比較のため、日本人がどのように行動していると回答したか（図表Ⅱ-1-2-1b）を再度示しておく。

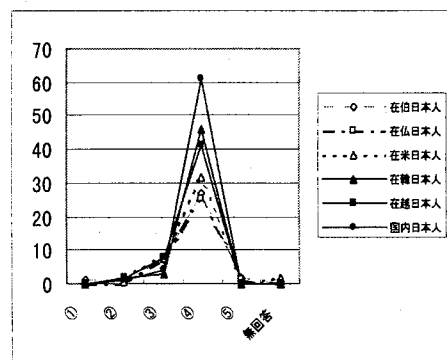
在日外国人から見た日本人の行動は、日本人の回答と類似したパターンを示すグループとそうでないグループとに分かれた。

図表Ⅱ-1-2-3a 在日外国人から見た日本人の行動 単位 人

	①	②	③	④	⑤	無回答
ブラジル人から見た日本人	2	13	9	13	0	0
フランス人から見た日本人	5	3	5	25	1	0
アメリカ人から見た日本人	11	12	8	12	0	0
韓国人から見た日本人	1	1	1	32	0	0
ベトナム人から見た日本人	0	0	4	24	0	5



図表Ⅱ-1-2-3b 在日外国人から見た日本人の行動



図表Ⅱ-1-2-1b 日本での行動（日本人）

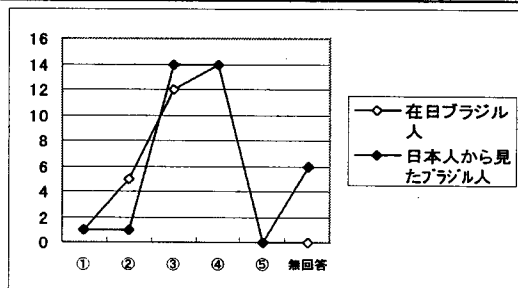
韓国人とベトナム人から見た日本人の行動は、ほとんどが「④少し丁寧な言葉で謝る」となっていて、日本人の回答と一致している。一方、ブラジル人とアメリカ人は、日本人自身の回答と大きく異なり、回答が分散した。ブラジル人では②③④に、アメリカ人では①②③④に分かれ、全体的に左に寄った形となっている。ブラジル人から見た日本人は、「言葉に出さず謝る」「簡単な言葉で謝る」「少し丁寧な言葉で謝る」に回答が分かれ、アメリカ人の観察ではさらに、「特に何もしない」も加えて4つに分散していることになる。フランス人には①～③が多少見られるが、全体としてはやはり④が多くなっていて、日本人・韓国人・ベトナム人グループにやや近いパターンを示した。

続いて、対照国での場合を見ていく。結果は、図表Ⅱ-1-2-4に示すようになった。

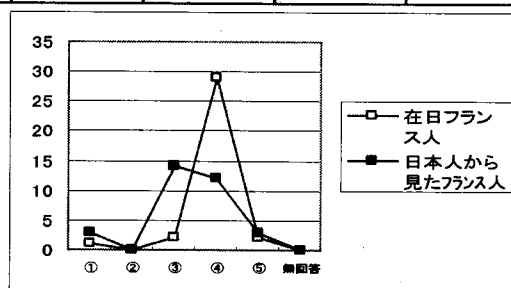
図表Ⅱ-1-2-4a 対照国の人々の行動

単位 人

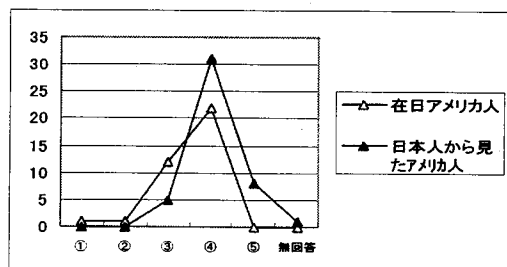
	①何も	②会釈等	③簡単	④丁寧	⑤その他	無回答
在日ブラジル人	1	5	12	14	0	0
日本人から見たブラジル人	1	1	14	14	0	6
在日フランス人	1	0	2	29	2	0
日本人から見たフランス人	3	0	14	12	3	0
在日アメリカ人	1	1	12	22	0	0
日本人から見たアメリカ人	0	0	5	31	8	1
在日韓国人	0	3	12	16	1	0
日本人から見た韓国人	28	5	7	16	2	0
在日ベトナム人	1	2	12	23	0	0
日本人から見たベトナム人	27	6	7	2	12	3



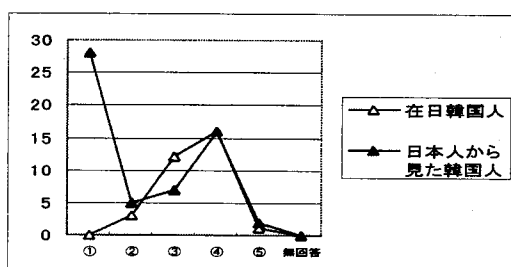
図表Ⅱ-1-2-4b ブラジル人



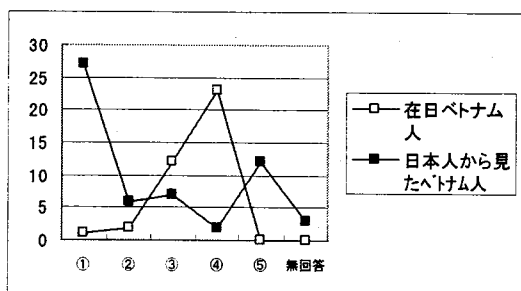
図表Ⅱ-1-2-4c フランス人



図表Ⅱ-1-2-4d アメリカ人



図表Ⅱ-1-2-4e 韓国人



図表Ⅱ-1-2-4f ベトナム人

ブラジル人については、在日ブラジル人の行動と、在日日本人が観察したブラジル人の行動が、かなり一致している。ブラジル人の回答には、日本人と比べて②の「言葉には出さないで謝る」が多いものの、全体的には③と④が多く、その分布の形も類似している。言葉としては、両者とも「ペルドン」「ディスクーペ（パ）」がほとんどで、③を選択し

た場合には「ペルドン」、④では「ディスクーベ (パ)」と回答されることが多い。フランス人については、在日フランス人の回答では④の「少し丁寧な言葉で謝る」が突出した山型になっているが、日本人から見たフランス人では、③の「簡単な言葉で謝る」と④に回答が分散する形となっており、言語化して謝るという点においては一致するものの、フランス人自身の意識より、日本人が観察したフランス人の行動の方が、言葉の上での丁寧度が低いという結果になった。フランス人にわずかに現れている、①と③は、いずれも④との複数回答として挙げられたものであり、⑤の「その他」も④よりさらに丁寧するというものであったから、「少し丁寧な言葉で謝る」という傾向は非常に強いと見てよい。両グループにより挙げられた語形を見ると、フランス人では「Excusez-moi」がきわめて多く、④を選択した場合の語形として、すべての回答に現れている(注2)。一方、日本人から見たフランス人では、「Pardon」が③を選択した場合に多く、また、④を選んだ場合にも出ている。日本人とフランス人の回答の差は、ぶつかって謝るときに「Excusez-moi」というか「Pardon」というかの差でもある。フランス人の意識としては、自分がぶつかったときには「Excusez-moi」と言って謝ると考えているが、日本人から見ると「Pardon」と言っていることも多いということになる。この不一致は、ぶつかりを自分の非として受け止め、謝罪すべきことと認識したかどうかとも関係するように思われる。自分の方からぶつかったということ、つまり自分に非があったと思われることに対しては「Excusez-moi」という言葉での謝罪すると意識されていて、「Pardon」は、儀礼的な応対であって、謝罪としての意味はさほどないとは考えられないだろうか。このことについては、さらに検討していく必要がある。

アメリカ人については、日本人から見たアメリカ人に④が多い。アメリカ人の回答では④のほか③もあり、フランスとは逆に、観察されたアメリカ人の行動の方が丁寧度が高い。しかし、全体的な形としては、両者にはさほど大きな差はないと見てよい。言葉としてはおもに、日本人では「Excuse me」「I'm sorry」が挙げられていて、傾向としては「Excuse me」を③に、「I'm sorry」を④に対応させていることが多い。アメリカ人では、これらのほか、③として「Sorry」などの語形が出ている。しかしフランスの場合と比べると、語形と選択肢の対応関係は一定していない。

韓国人については、日本人から見た韓国人に、①が突出しており、分布としては、「①何もしない」と「④少し丁寧な言葉で謝る」の、両極に分かれた形となった。一方、韓国人の回答は、④と③が多く、簡単な言葉にせよ、丁寧な言葉にせよ、言語化して謝るという回答となっており、①の「何もしない」は現れていない。言葉としては、「チェソンナムニダ」「ミアナムニダ」が挙げられているが、いずれも選択肢との対応関係はさほど強くないようである。日本人から見た韓国人に①が多いのは特徴的だが、それ以外は、大きな違いはなく、①に関してのみ、極端な不一致を見せている。

ベトナム人も、ベトナム人の行動と、日本人から見たベトナム人の行動とが大きな違いを見せ、しかも両者には全く共通点が見られない。ベトナム人の回答は、④と③が多く、ほとんどが言語化して謝るとしている。言葉としては、「シンロイ」で、③でも④でも、いずれの場合でも挙げられている。一方、日本人から見たベトナム人では①が突出している。この点は日本人から見た韓国人のパターンと類似しているが、他のどのグループでも一定数は現れていた④の「少し丁寧な言葉で謝る」が、ほとんどなくなっていることは、

大変興味深い。日本人から見たベトナム人に、⑤の「その他」が比較的多いが、そのおもな内容は、「人（性格、年代、階層、教育レベル）によって差がある」「笑う」「知らんふりをする」という回答であった。

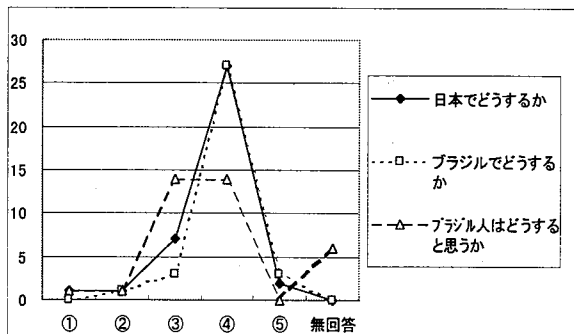
以上、ぶつかったときの行動について、国別に比較してきた。その国の出身者で、現在対照国および日本に滞在している人々と、観察されたその国の人々は、当然ながら同一の集団ではない。したがって単純な比較はできないが、ブラジル人とアメリカ人には、日本人の行動の丁寧度を低く見る傾向があり、少し丁寧な言葉で謝ると見ているそのほかのグループと傾向を異にすること、韓国人およびベトナム人について、かなりの日本人が「何もしない」と見ている一方、韓国人・ベトナム人自身は言語化して謝るとしているなど、大きなずれを見せることは注目される。以下、グループごとに比較しつつ、さらに詳細に見ていくことにする。

Ⅱ.1.2.2.4. 現住国で行動を変えるか

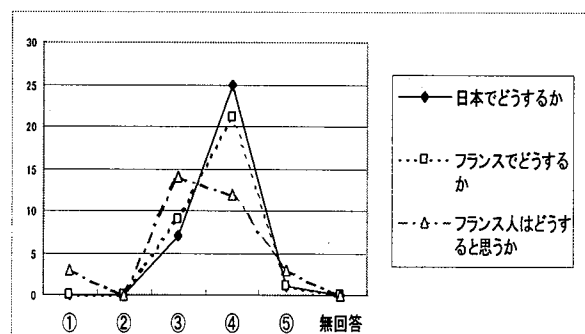
前節までに、被調査者の本来の行動パターンと考えられる母国での行動、現住している国での行動、そして現住国の人々の行動の3項目をそれぞれ見てきた。ここでは、この3つを比較し、特に母国での行動を現住国で変えるかどうか、そこには、現住国の人々の行動の影響が見られるかどうかを検討する。比較するのは、グループ全体の回答の分布であって、個人の行動がどのように変化するかを追ったものではない。しかし、これら进行比较することにより、全体的な傾向を探ることは可能であると考えた。まず、日本人の場合から示す。

図表Ⅱ-1-2-5a 現住国で行動を変えるか（日本人）

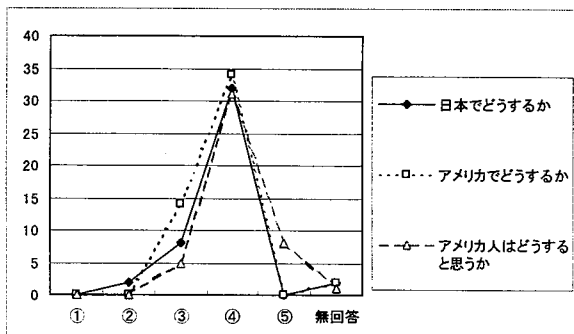
単位 人



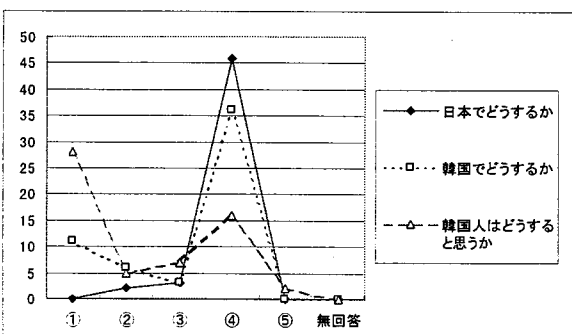
図表Ⅱ-1-2-5a 在伯日本人



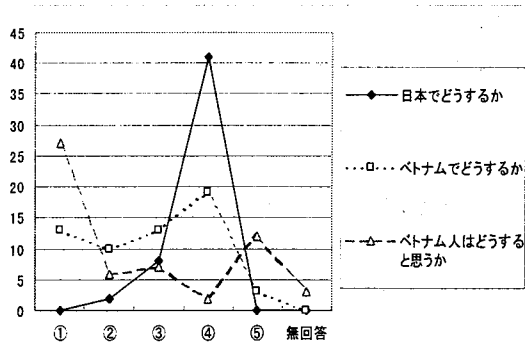
図表Ⅱ-1-2-5b 在仏日本人



図表Ⅱ-1-2-5c 在米日本人



図表Ⅱ-1-2-5d 在韓日本人



図表Ⅱ-1-2-5e 在越日本人

の行動について、言語化して謝ってはいるが、その丁寧度は必ずしも高くないと見ている傾向があるにもかかわらず、在伯日本人自身は、ブラジルではむしろ丁寧になることになる。在仏日本人でも、日本での行動とフランスにいる時の行動はそれほど変わらないが、フランス人はどうすると思うかという質問についての回答は、③と④に分かれている。「Excusez-moi」と「Pardon」という謝罪の決まり文句の使い分けにも関連していると思われることは前述の通りである。この両グループは、対照国の人々の行動を「簡単な言葉で謝る」と見ているにも関わらず、丁寧な言葉で謝るという自分自身の日本での行動を変えていないグループである。

在米日本人は、日本でもアメリカでも、また在米日本人から見たアメリカ人でも、④がほとんどで、3つのグラフがほぼ重なっている。在米日本人も、日本と現住国の行動が変わらないという点においては、在伯・在仏日本人のパターンと一致すると見てよい。なお、日本人の日本での行動のパターンはいずれも、④が多いので、アメリカ人の行動と日本人の行動は近似であるようにも見える。しかし、図表Ⅱ-1-2-4dで、アメリカ人が日本人から、アメリカ人自身が考える以上に丁寧度が高い謝り方をすると見られていたこと、さらに図表Ⅱ-1-2-3では、アメリカ人が日本人の行動を、「①何もしない」もしくは、「②言葉には出さないで謝る」と見ることも多かったことを考え合わせると、相対的に見て日本人よりもアメリカ人の方が、ぶつかりの際の謝罪が丁寧である傾向が強いと思われる。

在韓日本人の韓国での行動には、④が一番多いものの、日本では現れなかった「①とくに何もしない」が出ている。在韓日本人は、韓国人の行動を「④少し丁寧な言葉で謝る」か「①とくに何もしない」のどちらかであると見る傾向があるので、これは、在住している韓国で観察した韓国人の行動の影響を受けているものと考えられる。こうした傾向は、在越日本人にも見られる。図表Ⅱ-1-2-5eに示すように、在越日本人は、ベトナムでの行動を、在韓日本人の場合よりさらに大きく変えている。日本で多かった④が、ベトナムでは半分に減り、ぶつかったときの対応は、①から④までに回答が分散する形になった。

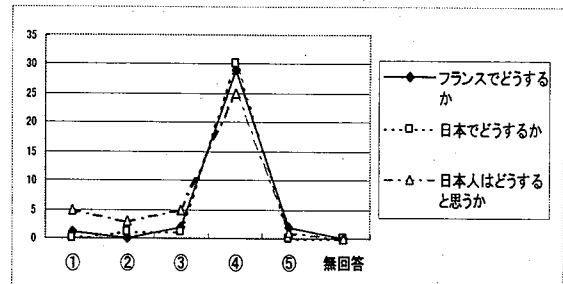
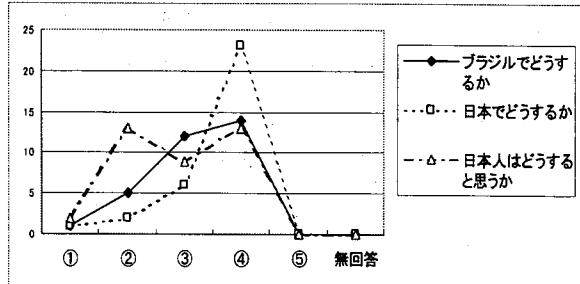
在韓、在越日本人のこのような変化については、次のコメントがある。

- 「始めは謝っていたが、だんだんこちらの人々のやり方を見て現地化してしまった」(在韓日本人・男性・30代)
- 「来越当初は④だけ。ベトナムの文化を知るにつれ自分の態度も変わってくる」(在越日本人・女性・20代)
- 「ベトナムではあまり謝っていない気がする。なぜならベトナム人も謝っていない

「気がするから」(在越日本人・男性・20代)
 しかし、一方で日本での行動で多かった④の数も残るという一面もまた見られる。
 続いて在日外国人を同様に見ていく。

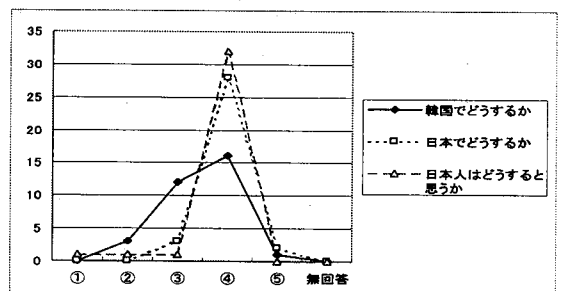
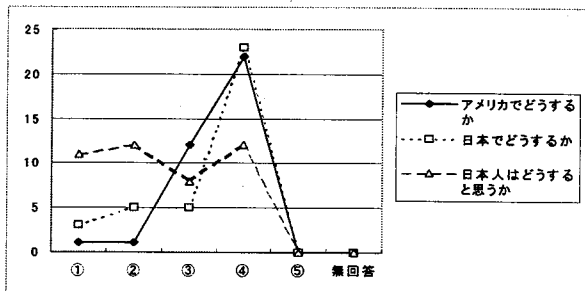
図表Ⅱ-1-2-6 現住国で行動を変えるか(外国人)

単位 人



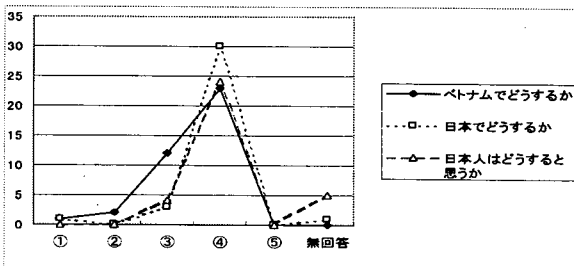
図表Ⅱ-1-2-6a ブラジル人

図表Ⅱ-1-2-6b フランス人



図表Ⅱ-1-2-6c アメリカ人

図表Ⅱ-1-2-6d 韓国人



図表Ⅱ-1-2-6e ベトナム人

ブラジル人は、ブラジルでは③と④がほぼ同じ数であるが、日本では④が多い。日本人の行動についての見かたが②③④に分散しているにもかかわらず、ブラジルでより、日本の方が丁寧度の高い言葉で謝まる傾向がある。ブラジル人は被調査者に日系人が多いために、日本にお

ける規範意識がより強く働いている可能性も考えられるが、理由ははっきりしない。他の要素からもなお、詳細を見ていく必要があると思われる。

フランス人は、フランスでも日本でもほとんどが④であり、また日本人の行動の観察でも、多少①②③があるものの、やはりほとんどは④で、3つのグラフはほぼ一致している。図表Ⅱ-1-2-1で見た日本人のパターンとも一致している。なお、このように3つの形がほとんど変わらないのは、前述した在米日本人と、この在日フランス人のみである。

アメリカ人は、アメリカでも日本でも、多くが④と回答しているが、日本では③の割合が少なくなり、②と①が多少増えていて、アメリカ人の観察した日本人の行動が①～④に分散することの影響がある可能性が考えられるが、それほどはっきりした傾向とは言えない。また、以下のように、日本で行動を変えているというコメントも見られた。

○「以前は④だったが、最近1年半経って変わった。①」(男性・20代)
 日本での行動で、なぜ③が減るのかについては、「自分が日本ではお客さんという感じが

するから、自分の国よりももっと謝る必要がある」(アメリカ人・女性・20代)というコメントに見られるように、「外国ではより丁寧に謝る」という行動規範に基づいている可能性もある。なお、これについては、在仏日本人にも「普通のフランス人だったら③だと思うが、自分は外国人なので常に相手に対する恐怖感がある。④にしておけばあたりさわりが無い」(在仏日本人・女性・30代)というコメントがあり、異文化の中で生活していく際の、一つの身の処し方であると思われる。

韓国人は、韓国では④と③が多いが、日本での行動は④が飛び抜けて多い。在日韓国人から見た日本人も、④がほとんどで、日本人の行動のしかたと、自分自身の日本での行動はほぼ一致している。これについては、「まず日本では謝らないといけない、という自然に身に付いた意識から『スイマセン』(と言う)」(在日韓国人・男性・30代)というコメントにも見られるように、日本人の行動に近づけている傾向が認められる。

ベトナム人でも、ベトナムでは④と③が多く、日本では④がほとんどである。観察された日本人の行動のしかたと、自分自身の日本での行動が近く、いずれも④が多くなっている、韓国と同様の傾向が窺える。しかも、観察された日本人の行動よりも、自分自身の行動の方がより④が多い。

以上、自分のもともとの行動パターンを現住国で変えているかどうかを見てきた。在米日本人とフランス人では、もともとの行動と、現住国での行動、現住国人の行動がほぼ一致していた。また、日本人の謝罪のしかたに合わせて丁寧度が高くなる方向への変化が、韓国人・ベトナム人に見られ、在韓・在越日本人には、韓国人・ベトナム人の行動に合わせた丁寧度の低い方向への変化が見られた。図表Ⅱ-1-2-1で見たように、在韓・在越日本人では、自身の意識する日本での行動では、他のグループよりも「少し丁寧な言葉で謝る」の比率が高かった。また一方で、韓国人・ベトナム人については、自身の意識する母国での行動の方が、日本人により観察された行動より丁寧度が高い方向に寄っていた。このことは大変興味深い。在越日本人から見たベトナム人以外は、どのグループでも、またどこにあっても、④の「少し丁寧な言葉で謝る」という回答が一定数現れていたことから、ぶつかったときに「少し丁寧な言葉で謝る」という行動は、少なくともここで対象とした国にあっては、ユニバーサルな行動規範として認識される傾向が強いと言って差し支えないと思われる。これらのグループの行動意識には、現住する国に合わせて自分の行動を変える現地化の傾向が見られるほか、ユニバーサルな規範が母国での行動に対する意識に影響を与える傾向が考えられる。

Ⅱ.1.2.2.5. 謝るときに何を気にするか

次に、自分がぶつかった際の行動の選択に際して、何を気にしているかを見ていく。

【質問文】

SUB：謝り方を選ぶとしたら、どんなことを気にして選ぶと思いますか？

その時の状況 (ぶつかり方 他)
相手の (相手の _____) 他 ()

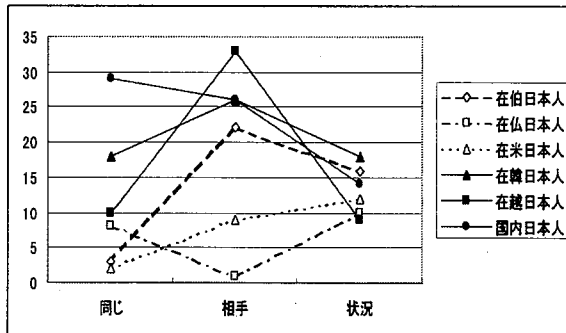
ここでは、質問文に例示されている、「その時の状況」および「相手」のほかに、「どんな場合でも対応は同じで、変わらない」という回答を加えた3つについて数を示す。なお、この質問項目については、複数回答や無回答があり、またグループによる回答数の違いも大きい。また、「状況」といっても、質問文に示されるように、ぶつかり方のほかに、その場に他の人がいたかどうかなど、異なる内容の回答も含まれる。「相手」についても、年齢、性別、職業、地位階級のほか、その時の相手の態度など、さまざまな要素が現れた。本来ならそれぞれ別個に取り扱うべきであるが、全体の回答数が少ないため、これ以上の下位分類は行わず、内容の異なりについてはコメントから見ていくこととする。

結果は、日本では図表Ⅱ-1-2-7に示したように、また、対照国では図表Ⅱ-1-2-8のようになった。

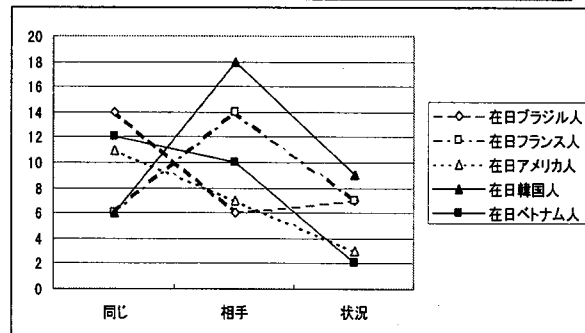
図表Ⅱ-1-2-7a 何を気にするか（日本）

単位 人

	同じ	相手	状況		同じ	相手	状況
在伯日本人	3	22	16	在日ブラジル人	14	6	7
在仏日本人	8	1	10	在日フランス人	6	14	7
在米日本人	2	9	12	在日アメリカ人	11	7	3
在韓日本人	18	26	18	在日韓国人	6	18	9
在越日本人	10	33	9	在日ベトナム人	12	10	2
国内日本人	29	26	14				



図表Ⅱ-1-2-7b 何を気にするか
（日本・日本人）

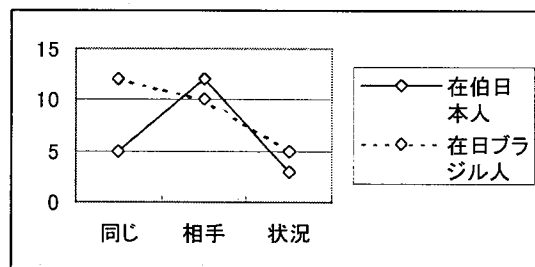


図表Ⅱ-1-2-7c 何を気にするか
（日本・外国人）

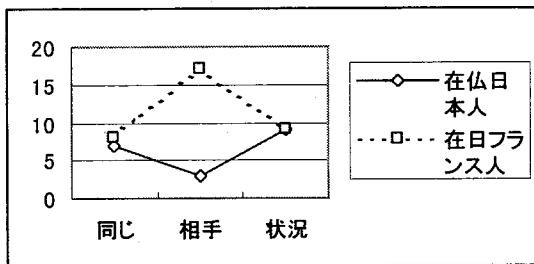
図表Ⅱ-1-2-8a 何を気にするか（対照国）

単位 人

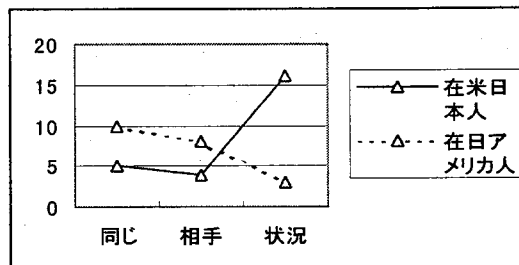
		同じ	相手	状況
ブラジル	在伯日本人	5	12	3
	在日ブラジル人	12	10	5
フランス	在仏日本人	7	3	9
	在日フランス人	8	17	9
アメリカ	在米日本人	5	4	16
	在日アメリカ人	10	8	3
韓国	在韓日本人	15	16	20
	在日韓国人	4	19	14
ベトナム	在越日本人	6	13	11
	在日ベトナム人	4	20	3



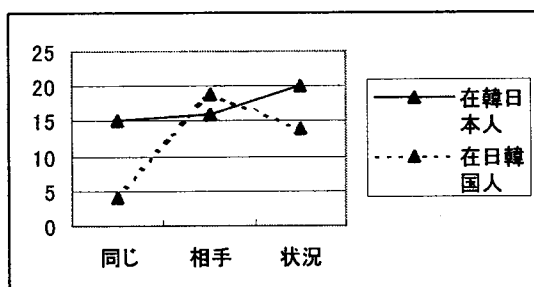
図表Ⅱ-1-2-8b 何を気にするか（ブラジル）



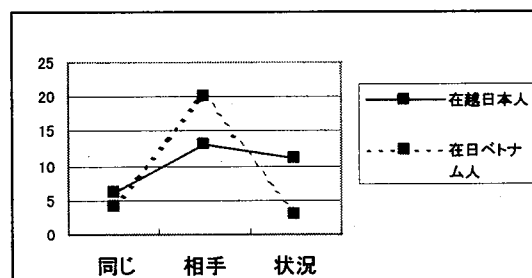
図表Ⅱ-1-2-8c 何を気にするか(フランス)



図表Ⅱ-1-2-8d 何を気にするか(アメリカ)



図表Ⅱ-1-2-8e 何を気にするか(韓国)



図表Ⅱ-1-2-8f 何を気にするか(ベトナム)

まず、日本での日本人と外国人の回答を「同じ」「相手」「状況」のパターンから見ていく。「相手」「状況」の2つを比較すると、在仏日本人、在米日本人、在日ブラジル人では「状況」が多く、それ以外のグループは「相手」が多い。ただし、在日ブラジル人の場合には、「状況」が多いといってもほんのわずかである。日本人・外国人を含めた全体的な傾向としては、日本での場合はぶつかった「相手」を気にするグループが多い。その中でも特に、在越日本人には「相手」がきわめて多い形となっていることが注目される。「同じ」「相手」「状況」の3つを比較して「相手」が多い、つまり中央が高い形となる傾向は、在越日本人のほか、在伯日本人、在韓日本人、在日フランス人、在日韓国人にも見られる。「相手」に分類された内容には、前述したように、年齢差又は目上か目下かにより違うという回答、相手の服装や社会的地位によって対応を変えるという回答、相手の態度によるという回答のほか、お年寄りや子供などに対してのみ、行動のしかたを変えるという回答も含まれている。全体の傾向としては、相手の年齢によるという回答が多かった。なお、ブラジル人とアメリカ人は、日本での行動として、「何もしない」「言葉には出さないで謝る」「簡単なことばで謝る」という丁寧度の低い方向が見られたグループであるが、謝り方としては、常に同じで変わらないとする回答が多くなっている。また、在仏日本人に「相手」という回答がほとんどないことが注目される。在仏日本人は、日本での場合と同様、フランスにあってはやはり「相手」という回答が少ない。

3つのパターンのうちで「同じ」が多いのは、ブラジル人、アメリカ人のほか、国内日本人、ベトナム人となっている。国内日本人には、「こちらからぶつかったから、いつでも同じ」「自然に出る」というコメントも多く見られ、自分がぶつかったときには、「少し丁寧な言葉で謝まる」という行動が、パターン化されている傾向が見られる。

日本での場合と対照国での場合と比較しながら、国ごとに見ると、まず、ブラジルでは、

日本人に「相手」が多い点は日本での場合と変わらないが、「状況」の比率が減っている。ブラジル人では「同じ」が多いが、日本での場合と比べると「相手」も増えている。ブラジルでは両グループとも、相手の年齢、性別、階級、職業、地位、服装のほか、相手の態度、表情等、さまざまなものを気にするとしている。

フランスでは、日本人に「相手」を気にするという回答が少なく、フランス人では多くなっていて、まったく逆のパターンを示している。フランス人は、女性やお年寄りには、痛くしなかったかといった気遣いを示す言葉をかけたり、子供には注意を与えたりすると回答しており、目下か目上かという上下関係によってではなく、相手をいたわるべき対象とみなした場合のみ行動を変えるという傾向が見られる。在仏日本人、フランス人とも、3つのパターンが日本での場合とあまり変わっておらず、この両グループは、日本とフランスのいずれにあっても、謝るときに気にする対象が一定であると考えられる。

アメリカに関しては、日本人に「状況」が飛び抜けて多くなっているが、アメリカ人では逆に少ない。日本人の「状況」の内容は、ほとんどが「ぶつかり方による」というもので、ぶつかり方の程度、相手の被害の度合いとするものであった。アメリカ人は日本での場合とほぼ同じく、「同じ」が多く、ついで「相手」と回答していて、どちらの国にあっても気にする対象に変化がない。

韓国については、日本人・韓国人とも、一人の被調査者によって言及される項目が多く、内容的にも多様なものが現れている。日本人の回答は、「状況」「相手」「同じ」がそれぞれ同じくらいであるが、韓国人では、「同じ」が少なく、考慮対象が「相手」に寄る傾向を見せている。内容は、相手の年齢、様子が挙げられた。日本で、在韓日本人に多かった「相手」は、韓国ではむしろ減っている。韓国で気にすることとして、相手の年齢のほか、反応、風貌が挙げられているが、これは日本での場合とさほど変わりはない。「状況」の内容としては、ぶつかりの程度のほか、自分が急いでいるかどうかなどが挙げられている。

ベトナムでは、特にベトナム人の回答が「相手」に集中していることが注目される。内容的には、年齢が上か下かで言い方を変えるというものがほとんどであった。これは、ベトナム語で、謝罪の定型表現に呼称が付加され、それを相手によって変える必要があるためと考えられる。一方、日本人の回答では、「相手」と並んで「状況」が現れているが、その内容は「混雑の具合による」「危険度がどのくらいあるか」「逃げられる状況にあるかどうか」などであり、同じ「状況」でも「ぶつかり方による」が多かったアメリカの場合とは大きな違いを見せる。在越日本人は、日本での場合と比べ、「相手」が減る傾向がある。

以上は、いずれも限られた範囲内の比較ではあるが、一応の傾向を示した。日本において、特に日本人では、ぶつかったときに「少し丁寧な言葉で謝る」という回答が、どのグループでも大部分であったにも関わらず、気にする内容がかなり分散することを考えると、ぶつかったときに何を気にして行動するかは個人差も大きいと見るべきかもしれない。外国人では、「同じ」という回答の数はグループで多少があるが、「相手」と「状況」では全体的に「相手」が多く、両者の比率も各グループで比較的安定している。しかし、各国ごとの日本人・外国人の行動については、共通点は見られず、全体的にはっきりした傾向は掴めなかった。

なお、「いつでも同じ」という回答は、いずれのグループでも現れているが、現住国で、

被調査者が当該言語での謝罪表現のバリエーションを知らないために、いつも同じ言葉を使わざるを得ず、したがって謝り方はいつも同じと回答する可能性もある。特にベトナム人については、日本滞在期間が短い被調査者が多いので、こうした傾向が強いかもしれない。被調査者の滞在年数や現住国の人との接触度、現住国の言語の運用能力などからも検討していく必要がある。

Ⅱ.1.2.3 無謝罪に対する印象

前節まではビデオ場面ではなく、ぶつかりの際の一般的な行動について尋ねてきたが、ここから、実際のビデオ場面についての質問に入る。まず、ビデオを無音で、登場人物の二人がぶつかったところまで提示し、先に声をかけるのはどちらかを尋ね、さらにぶつかった方が先に謝らなかった場合の印象、さらに、同様の場面が対照国で起きた場合の印象を尋ねる。場面の詳細については、「刺激ビデオ場面シナリオ」をご覧ください。

なお、以下に示した質問文のうち、(1)についての分析は、前章Ⅱ.1.1.4.で述べているので、ここでは省略し、(2)「ぶつかった方が先に謝らないとしたら、どんな感じがするか」という質問項目のみを取り上げる。以下にビデオ場面についての質問を示す。

【質問文】

1.1.0. これから、短い映像を見ていただきます。出てくる場面は、日本のマンション（集合住宅）の廊下です。二人の女性がすれちがう時に、一方が急いでいたためにぶつかりそうになり、ちょっと体がふれあいました。二人は、互いに見知らぬ同士です。二人は何か言葉をかわしていますが、まず音声を消して見ていただきます。【刺激映像を音声なしで提示して】

1.1. 追加1. まず、この場面を、日本・東京での日本人同士の出来事だとして考えてください。

(1) [日本・東京] では、この二人のうち、どちらから声をかけるのが普通だと思いますか？

ぶつかった方 ぶつかられた方 どちらとも決まらない

(2) ぶつかった方（若い女性）が先に謝らないとしたら、どんな感じがしますか？

この質問は自由回答であるので、さまざまなコメントが現れる。回答の基本的視点としては、この場でぶつかった女性が先に謝らなかったら、第三者としてどのように感じるかということであったが、ぶつかった人の立場に立った回答も多く得られている。

ここでは、述べられた内容を以下のように分類した。まず、「不愉快」「むっとする」など、ビデオ場面の中に自らを当事者として置き、不快な感情を述べた回答を「不愉快等」とした。「失礼」「礼儀正しくない」など、ぶつかった側のふるまい方についての評価を述べる、どちらかといえば客観的な回答は「相手批判」とした。さらに「これが今の日本なのかなという感じ」「この国では普通のこと」というように、ビデオ場面の行動そのものについての印象ではなく、当該国で行われている行動に一般化して述べた回答を「一般化」、

何も思わない、良い悪いのいずれの印象も持たないとした回答を「何も思わず」とした。これと類似した回答で、当該の行動からは距離をとった態度ではあるが、否定的な感情も同時に示している、「しかたがない」「あきらめる」などの回答を「あきらめ」とした。基本的には一回答につき一つの分類としたが、複数の内容が現れ、一つにまとめることが困難な場合には、一回答中でもそれぞれを一つと数えていることがある。また、「不愉快だ」という回答と、「ぶつかった人は失礼である」という回答は、一つの感情の二通りの表現と考えられ、分かちがたいところもあるが、ここではコメント中に「不愉快」「失礼」などの表現があるかないかで分類した。内容の詳細については、コメントを取り上げる際に随時触れることにする。なお、「不愉快等」と「相手批判」は、当該場面の印象についての否定的な反応が特に強い回答と考えることができる。

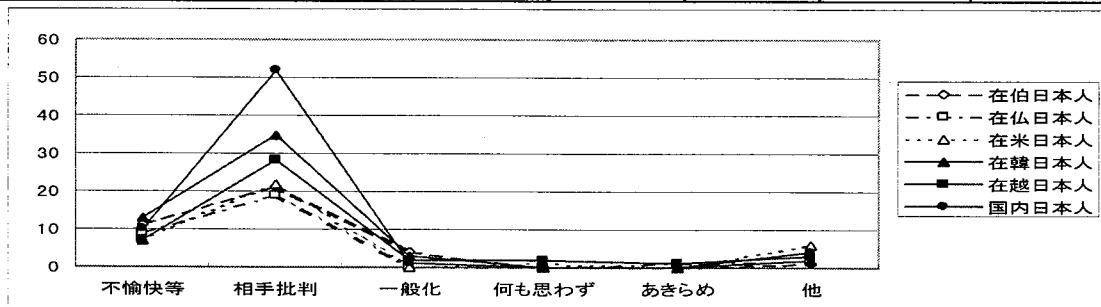
Ⅱ.1.2.3.1. 無謝罪の印象 - ビデオ場面

まず、ビデオの場面について、登場人物が先に謝らないとしたらどんな感じがするか、という質問に対する回答を見ていく。ビデオで提示するのはぶつかった瞬間までであり、回答は、このぶつかりの場面を見た上で、ぶつかった方が謝らなかった場合を想像してなされる。結果は以下に示す通りとなった。

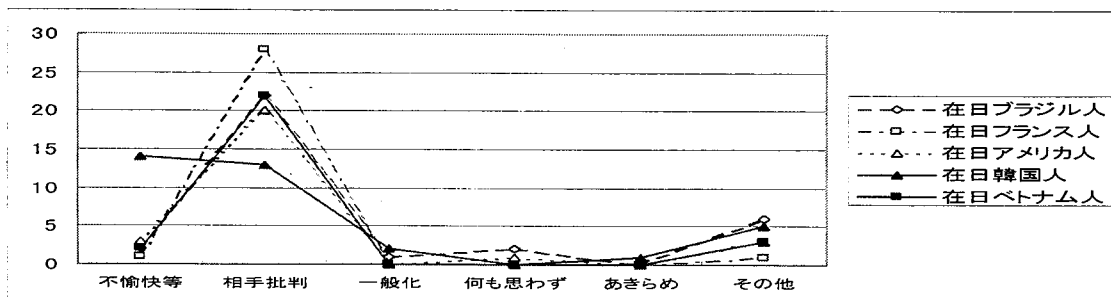
図表Ⅱ-1-2-9a 無謝罪の印象・ビデオ場面

単位 人

	不愉快等	相手批判	一般化	あきらめ	何も思わず	その他
在伯日本人	11	21	4	0	0	1
在仏日本人	9	19	0	1	0	2
在米日本人	7	22	0	0	1	6
在韓日本人	13	35	3	0	0	2
在越日本人	7	28	2	1	2	3
国内日本人	10	52	1	0	0	4
在日ブラジル人	2	22	1	0	2	6
在日フランス人	1	28	0	0	0	1
在日アメリカ人	3	20	0	0	1	3
在日韓国人	14	13	2	1	0	5
在日ベトナム人	2	22	0	0	0	3



図表Ⅱ-1-2-9b 無謝罪の印象・ビデオ場面（日本人）



図表Ⅱ-1-2-9c 無謝罪の印象・ビデオ場面（外国人）

結果を見ると日本人でも外国人でも、いずれのグループでも「相手批判」がかなり多くなっている。割合としては日本人では、国内日本人に「相手批判」が多い。「不愉快等」は日本人には一定数現われているが、外国人では、韓国人以外にはほとんど現れない。在日韓国人では、「不愉快等」と「相手批判」がほぼ同数となっていて、他のグループとは違った傾向を見せる。いずれにしても、ビデオの場面でぶつかった方が謝らなかった場合には、日本人・外国人を問わず、ほとんどの被調査者がよくない印象を持つと回答していることになる。得られたコメントの内容を、日本人、外国人をまとめて以下に示す。

「不愉快等」に分類された回答には、「不愉快」「むっとする」といったコメントが全体を通して多く現れた。

○「ムツとする」(国内日本人・女性・20代)

●『『ケシカラン』と腹立つ』(在日韓国人・女性・20代)

「相手批判」の内容としては、全体的には「失礼」「無礼」「非常識」という回答が多く、そのほか、躰や性格等に言及した次のような回答も見られた。

●「失礼。躰されていない」(在日フランス人・女性・50代)

○「不作法な人」(国内日本人・女性・50代)

○「性格が悪い」(在伯日本人・男性・40代)

●「下品な人」(在日ブラジル人・男性・30代)

「一般化」に分類されたコメントには、次のようなものがある。

○「これが今の日本なのかなという感じ」(在伯日本人・男性・50代)

●「日本人でもそんな人いるんだな、という感じ」(在日韓国人・女・30代)

「あきらめ」には次のコメントがあった。

○「日本人はあまり相手に対して声を出さないで『ショウガナイナア』と思う」
(在仏日本人・男性・50代)

「何も思わず」は、特別な印象には言及していないものである。

○「よっぽど急いでいるな」(在韓日本人・男性・30代)

Ⅱ.1.2.3.2. 無謝罪の印象 — 対照国の場合

続いてビデオと全く同じ状況が、日本人にとっては現住国、外国人の場合には母国である対照国であった場合に、やはりぶつかった方が最初に謝らなかったらどのような感じがするかを質問する。なお、ビデオ場面での場合と同様、(1)の質問の結果は前章を参照されたい。

【質問文】

1. 追加2 では、この場面を【この国/母国】での出来事だとして考えてみてください。

(1) 【この国/母国】では、この二人のうち、どちらから声をかけるのが普通だと思いますか？

ぶつかった方 ぶつかられた方 どちらとも決まらない

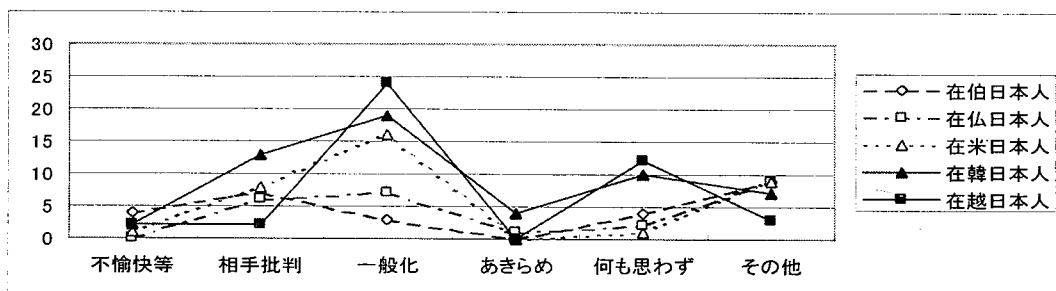
(2) ぶつかった方（若い女性）が先に謝らないとしたら、どんな感じがしますか？

ビデオ場面でぶつかった方が謝らなかったらどのような感じがするか、という前の質問も、実際にはビデオの状況から、引き続く場面を想像した上でなされたものであったが、ここではさらに登場人物や状況を、対照国での同様の場面に置き換え、想像して回答することとなる。結果は以下に示す通りとなった。

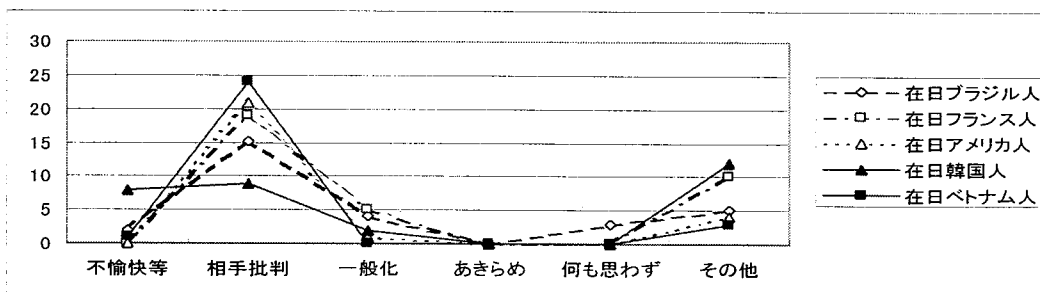
図表Ⅱ-1-2-10a 無謝罪の場合の印象・対照国

単位 人

	不愉快等	相手批判	一般化	あきらめ	何も思わず	その他
在伯日本人	4	7	3	0	4	9
在仏日本人	0	6	7	1	2	9
在米日本人	1	8	16	0	1	9
在韓日本人	2	13	19	4	10	7
在越日本人	2	2	24	0	12	3
在日ブラジル人	2	15	4	0	3	5
在日フランス人	0	19	5	0	0	10
在日アメリカ人	0	21	1	0	0	4
在日韓国人	8	9	2	0	0	12
在日ベトナム人	1	24	0	0	0	3



図表Ⅱ-1-2-10b 無謝罪の場合の印象・対照国（日本人）



図表Ⅱ-1-2-10c 無謝罪の場合の印象・対照国（外国人）

外国人では韓国人に「不愉快等」が他より多いという傾向も含め、ビデオ場面と似通ったパターンを示している。全体的には、ビデオ場面の場合と比べあまり変わらず、「その他」や「一般化」が多少増加しているところが目に付く程度である。つまり、母国でビデオと同様のことが起きても、相手について失礼、非常識だという印象は変わらない。一方、日本人では回答パターンが、ビデオでの場合とは大きく違っている。相手に対してよくない印象を持つという回答が大幅に減って、「一般化」「何も思わず」が増加している。このことは、ひとつには対照国での場合、日本人にとっては、いわば部外者としての判断となるうえ、さらにその場面を想像することになるということが影響していると思われる。当該場面についての良い悪いの判断を下しづらいため、いったん判断を棚上げして、当該社会での一般的な事柄について述べているという面があるのではなかろうか。外国人が日本のことについて回答する場合でも同様の状況となるが、その場合には、ビデオで見た具体的な場面について判断すればよく、回答しやすかったという面があったと思われる。この中で特に注目されるのは在越日本人で、日本で多かった「相手批判」が大きく減少し、大部分が「一般化」と「何も思わず」になっている。図表Ⅱ-1-2-4のベトナム人の行動について、在越日本人はベトナム人同士がぶつかった時に、「何もしない」ことが多いと見ていた。そのためビデオ場面と同様のことがベトナムで起こっても謝罪が期待されず、不愉快したり相手を失礼と考えるより、「この国では謝らないことが多い」などの一般化された回答や、そのことを気にしないと回答する傾向が現れていると思われる。在韓日本人にも同様の傾向がある。述べられた内容をコメントから見ていく。

「不愉快等」に分類された内容には、次のものがあつた。

○「怒りを感じる。ぶつかった人に直接『謝リナサイ』というかもしれない」(在米日本人・男性・50代)

●「怒る。『何だよ!』」(在日韓国人・女性・30代)

「相手批判」ではビデオ場面に対する印象と同様、次のようなコメントが多く見られた。

○「非常識」(在伯日本人・男性・50代)

●「思いやりがない。失礼だ」(在日アメリカ人・男性・30代)

なお、全般的にいて、「不愉快等」「相手批判」に分類されたコメントには、「その他」に分類されたコメント、例えば当該国についての一般的な事柄について述べた回答などの両方に分類される回答も見られ、ビデオ場面の印象で述べられたコメントが比較的単純であつたのに比べて、回答内容として複雑になる傾向が見られる。

「一般化」では、フランスとアメリカでは、フランス人・アメリカ人は謝らないことはあり得ない、とするコメントが日本人に特徴的に現れた。

○「フランス人ではないと思う。フランスでは謝るのは習慣になっている」(在仏日本人・男性・20代)

○「アメリカでの生活が短い、英語が話せないと解釈する。生粋のアメリカ人なら『Excuse me』は子供でもいう」(在米日本人・女性・20代)

Ⅱ.1.2.2.2., Ⅱ.1.2.2.3. で見てきたように、この両国では、いずれのグループもまた日本人の観察でも、丁寧な言葉で謝るにせよ、簡単なことばで謝るにせよ、言語化して謝ることが非常に多かった。ここでのコメントも、ぶつかった場合の謝罪が、一つのルールとして定着していることを示すものだが、コメントでは同時にその社会の構成員の多様性

と、そのことによる別の行動パターンの存在をも指摘している。

これとは逆に、韓国とベトナムについては、この国ではぶつかりは普通のこととする回答が多く現れている。韓国人とベトナム人については、ぶつかったときに「何もしない」という回答が多く見られた国であった。「一般化」「何も思わず」に分類されたコメントは、何もしないことの大きな理由として、これらの国にあってはぶつかることは普通のことであることを挙げている。

○「あまり気にしない。ぶつかるぐらいは大したことではないと思うのではないだろうか。だから謝らないのだと思う」（在韓日本人・男性・40代）

●「急いでいてわざとやったわけではない。周りに気が回らなかっただけ。わざわざ止まってまで謝ることはない。相手もちょっとぶつかったただけだとわかってくれる」（在日韓国人・男性・30代）

○「普通。ベトナムではぶつかった方の人ではできるだけ声をかけずに逃げるように立ち去ろうとする」（在越日本人・男性・20代）

韓国人・ベトナム人に対して、ぶつかった時に謝らないというようなステレオタイプ化されたコメントも見られた。

○「韓国の人は謝らない」（在韓日本人・女性・30代）

○「ベトナム人だなあ」（在越日本人・女性・20代）

また、ブラジルについても数は多くないが、同様の回答がある。

○「『あ、やっぱりブラジル人だ』と思う」（在伯日本人・女性・20代）

在日ブラジル人には、ぶつかったとき「何もしない」という回答はほとんどなかったものの、「言葉には出さないで謝る」という回答がほかより多く見られたことを考え合わせると、ぶつかった時の謝りとしては、ブラジルではやや軽い傾向があるのかもしれない。

最後に、ここで行った分類を離れ、回答中に特徴的に現れたコメントのいくつかについて示しておく。これらは、人や地域による多様性をはじめ、ぶつかった側の行動を評価するにあたっての考慮要因を指摘するもので、おもに「その他」に分類されている。

(1) 人や地域による違い

ぶつかった方が先に謝らない場合、どのような印象を持つかについて、人や地域によってぶつかった側の行動に幅があるとした次のようなコメントがあった。

●「人による。フランスでは、その人の性格、丁寧さ、教養などで様々だから、謝らなくても変ではない」（フランス人・女性・20代）

○「別に何も思わない。アメリカではぶっきらぼうな方も多いので」（在米日本人・男性・20代）

●「パリの人は冷たいので全然言わない。田舎はまた違う」（フランス人・男・50代）

(2) 複数の基準の存在

当該社会の行動基準が一つではないことを示すコメントもある。

○「この社会ではぶつかっても何もいわないのが当たり前ではあるのだが、年上には礼儀正しい国なので、そういう観点からは謝らないと失礼かな、という2つの

気持ちがあって、どっちが優先されるのかというのがわからない」(在韓日本人・女・20代)

- 「ぶつかった方に非があるなら謝るのがフェアだと思う。金銭がからむ場合は非は簡単に認めない方がよい」(在米日本人・女・20代)

韓国については、何もいわないことが多いが、一方で年齢の上下という要素の関係により丁寧になる可能性があること、アメリカについては、金銭が絡む場合には、ぶつかったら謝するという行動基準が働かなくなることを指摘している。金銭や責任問題が発生する場合についての同様の指摘は、アメリカのほか、ブラジル、フランスについても行われている。これら3カ国では、ぶつかった時に丁寧度の高い謝りをすることは、すでに見た通りだが、その一方で、この規範が適応されない部分が明確に存在することは興味深い。

(3) 他の可能性の存在

以下のように、ぶつかった後も謝らなかったり、さらには走るという行為自体が異常なことであり、犯罪などの危険を考えるという回答もあった。

- 「誰かがすごい勢いで走ってきてぶつかったら、強盗など何か危険なことがあるのではと考える」(在米日本人・女性・30代)
- 「ぶつかって相手が謝らない場合は、危険を感じる」(在伯日本人・女性・30代)

Ⅱ.1.2.4. ビデオ場面の謝罪について

ここで初めてビデオを、音をつけて終わりまで視聴する。場面としては、マンションの廊下を走ってきた若い女性が年配の女性にぶつかり、この女性から「危ないわね。気をつけてよ」という抗議を受け、頭を下げながら「すみません」と謝るところまでである。ここまで見た後に、まず全体的な印象として、このビデオ場面の若い女性の謝罪が適切かどうかを質問する。さらに、そうした全体的な印象をもたらした要因はどこにあるのかを見るため、言葉、身振り、表情などの量の過不足を尋ねる。適切か不適当かについての設問と、言葉等の過不足についての設問は、独立した項目であるが、内容的に関連し合っているため、コメントは混在して述べられることが多い。以下、適切不適当を尋ねる質問の結果を見、次に謝罪表現の過不足について見た後、コメントは一括して扱うこととする。

Ⅱ.1.2.4.1. 謝罪の表現は適切か

まず、ビデオ場面で、若い女性が行った謝り方について、適切と思うか、それとも不適当と感じるかを取り上げる。以下に質問文と結果を示す。なお、(1) ②SUB. SUB. で、不適当な点として例示した、言葉、身振り、表情は、回答が出づらかった際に示す例であり、この質問は基本的には自由回答であると考えてよい。

【質問文】

1.2.4. では、こんどは、こちらのあやまった側の人のことをうかがいます。日本のことです。

SUB-1. この人のあやまり方について、どんな印象を受けましたか？

(1) ①この場面でのあやまり方として、まずは適当だろう。

②この場面でのあやまり方としては、不適當だ。

SUB. SUB. どんな点が不適當だと思いますか？

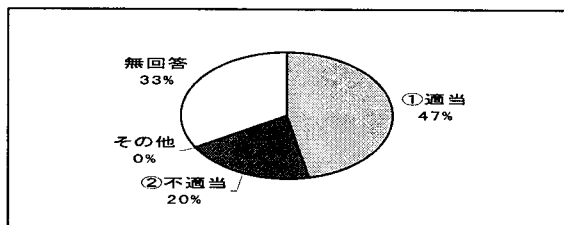
言葉： 身振り： 表情： [(外国人のみ) タイミング：]

図表Ⅱ-1-2-11a 謝り方の適不適

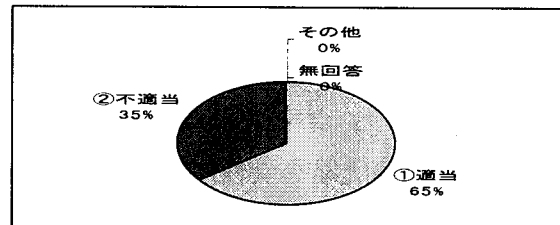
単位 人

	①適当	②不適當	その他	無回答	計
在伯日本人	14	6	0	10	30
在仏日本人	20	11	0	0	31
在米日本人	25	7	0	6	38
在韓日本人	32	15	0	3	50
在越日本人	29	13	0	4	46
国内日本人	38	25	0	1	64
在日ブラジル人	23	9	0	0	32
在日フランス人	15	11	1	3	30
在日アメリカ人	12	9	0	9	30
在日韓国人	19	11	1	1	32
在日ベトナム人	18	10	0	4	32

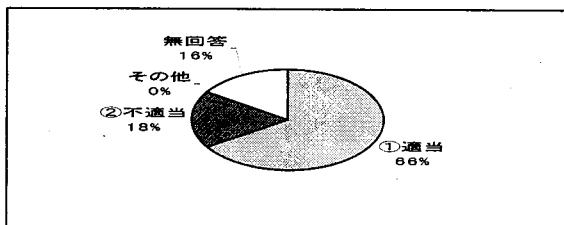
【日 本 人】



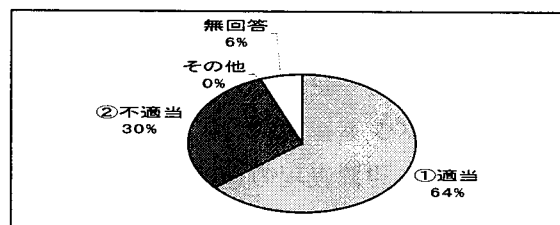
図表Ⅱ-1-2-11b 謝り方の適不適
(在伯日本人)



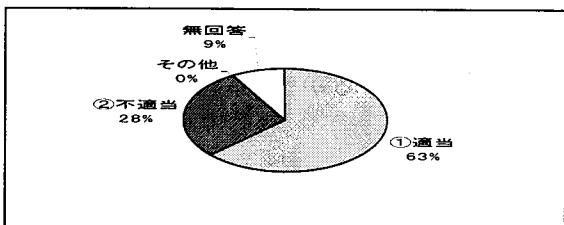
図表Ⅱ-1-2-11c 謝り方の適不適
(在仏日本人)



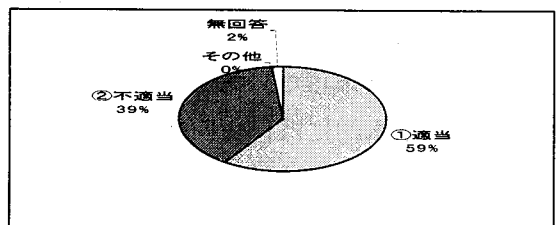
図表Ⅱ-1-2-11d 謝り方の適不適
(在米日本人)



図表Ⅱ-1-2-11e 謝り方の適不適
(在韓日本人)

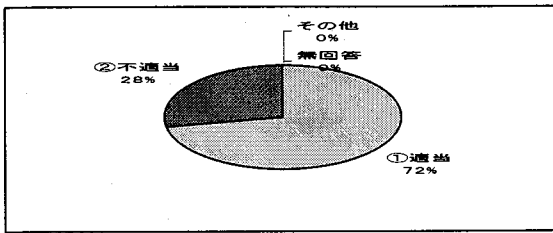


図表Ⅱ-1-2-11f 謝り方の適不適
(在越日本人)

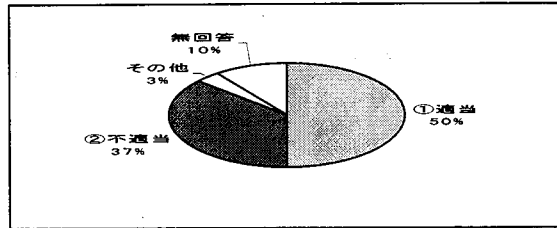


図表Ⅱ-1-2-11g 謝り方の適不適
(国内日本人)

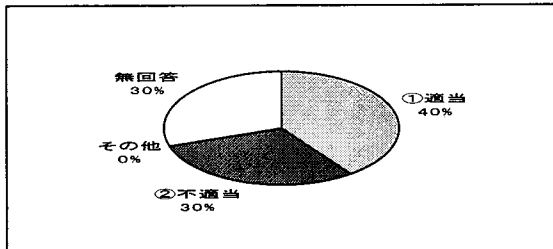
【外国人】



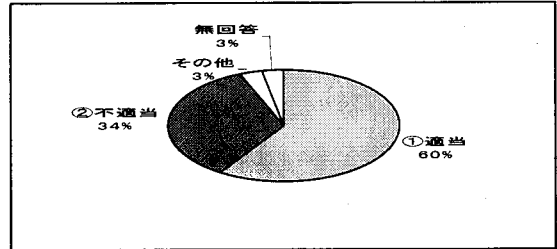
図表Ⅱ-1-2-11h 謝り方の適不適
(在日ブラジル人)



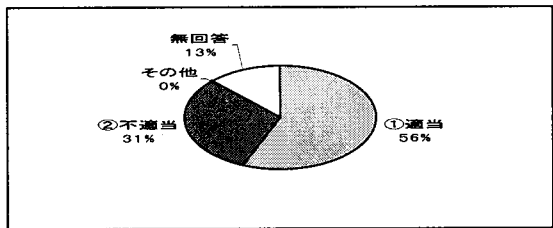
図表Ⅱ-1-2-11i 謝り方の適不適
(在日フランス人)



図表Ⅱ-1-2-11j 謝り方の適不適
(在日アメリカ人)



図表Ⅱ-1-2-11k 謝り方の適不適
(在日韓国人)



図表Ⅱ-1-2-11l 謝り方の適不適
(在日ベトナム人)

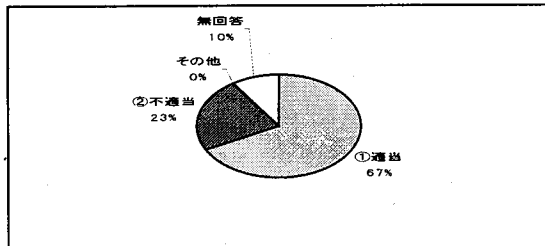
まず、日本人から見ていく。無回答も多いので正確な比較はできないが、いずれも「適当」が多いという点では一致している。「不適当」の割合だけで見ると、一番多いのが、国内日本人で39%、続いて在仏、在韓、在越、在伯、在米日本人の順となっている。外国人でも、全体的には日本人と同様に「適当」が多い。「不適当」はフランス人が37%でもっとも多く、続いて韓国人、ベトナム人、アメリカ人、ブラジル人という順になった。アメリカ人とブラジル人が逆転する点を除けば、国ごとの順番がほぼ一致している。なお、図表Ⅱ-1-2-12に示すようにここでは男女による差、および日本人外国人による回答差が現れた。

まず、日本人から見ていく。無回答も多いので正確な比較はできないが、いずれも「適当」が多いという点では一致している。「不適当」の割合だけで見ると、一番多いのが、国内日本人で39%、続いて在仏、在韓、在越、在伯、在米日本人の順となっている。外国人でも、全体的には日本人と同様に「適当」が多い。「不適当」はフランス人が37%でもっとも多く、続いて韓国人、ベトナム人、アメリカ人、ブラジル人という順になった。アメリカ人とブラジル人が逆転する点を除けば、国ごとの順番がほぼ一致している。なお、図表Ⅱ-1-2-12に示すようにここでは男女による差、および日本人外国人による回答差が現れた。

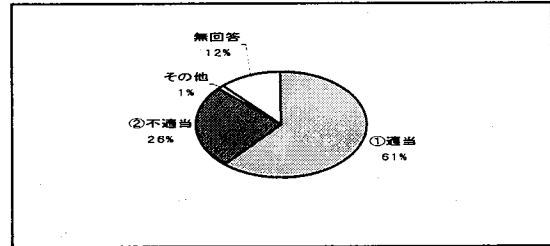
図表Ⅱ-1-2-12a 謝り方の適不適・男女

単位 人

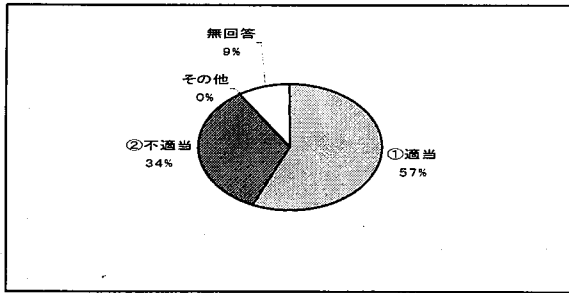
		①適当	②不適当	その他	無回答	計
男 性	日本人男性	71	24	0	10	105
	外国人男性	47	20	1	9	77
女 性	日本人女性	87	53	0	14	154
	外国人女性	40	30	1	8	79



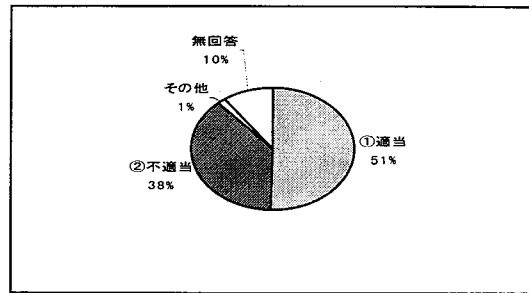
図表Ⅱ-1-2-12b 謝り方の適不適・男女
(日本人男性)



図表Ⅱ-1-2-12c 謝り方の適不適・男女
(外国人男性)



図表Ⅱ-1-2-12d 謝り方の適不適・男女
(日本人女性)



図表Ⅱ-1-2-12e 謝り方の適不適・男女
(外国人女性)

男女別に見ると、女性の方に「不適当」とした割合が多い。一番多かったのは外国人女性で38%、逆に一番少なかったのは、日本人男性で23%となっている。日本人男性では、ビデオ場面の謝罪をもっとも肯定的に捉える傾向があり、外国人女性はこれをもっとも否定的に捉える傾向があるといえる。外国人女性の次に「不適当」が多かったのは日本人女性で34%であり、外国人男性では26%となった。なお、ここではグループおよび、男女差、日本人外国人以外の要素でははっきりした傾向は見られなかったが、「不適当」とした割合の国ごとの順番がほぼ一致するなど、何らかの傾向が出てくる可能性もある。

Ⅱ.1.2.4.2. 謝罪の表現に過不足はあるか

ビデオの謝り方についての「適当」「不適当」を尋ねる項目に続いて、おもに謝りの量について、足りないかこれくらいでいいか、もしくは多すぎるとするかを尋ねる。

【質問文】

1.2.4.

SUB-2 この場面でのあやまり方として、あやまり過ぎだと思いますか？それとも、あやまり足りないと思いますか？

足りない これくらいでいい 多過ぎる

SUB. SUB. どんな点に過不足がありますか？

言葉： 身振り： 表情：

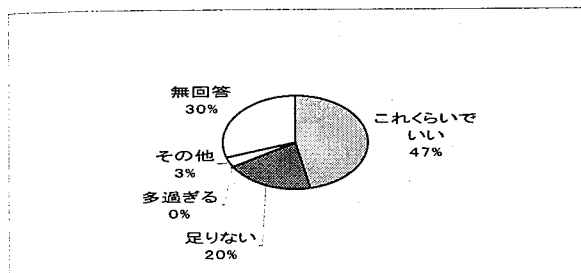
図表Ⅱ-1-2-12a 謝り方の過不足

単位 人

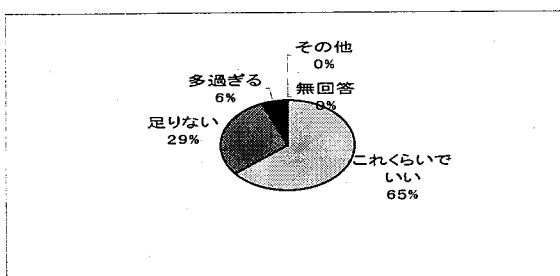
	これくらいでいい	足りない	多過ぎる	その他	無回答	計
在伯日本人	14	6	0	1	9	30
在仏日本人	20	9	2	0	0	31
在米日本人	21	11	0	0	6	38
在韓日本人	33	16	1	0	0	50
在越日本人	28	13	0	0	5	46
国内日本人	40	21	1	2	0	64
在日ブラジル人	24	8	0	0	0	32
在日フランス人	19	10	0	1	0	30
在日アメリカ人	12	11	0	0	7	30
在日韓国人	18	12	1	0	1	32
在日ベトナム人	19	6	0	0	7	32

結果は、全体的に見て、適当不適当の回答とほぼ同じ傾向を示した。「不適当」と回答される場合には、ビデオでの謝り方のどこかに、不足していたり、多すぎたりする部分があると感じるからであって、両回答が同じ傾向になるのは、当然の結果であるの一応は考えられよう。以下、日本人の回答から見ていく。

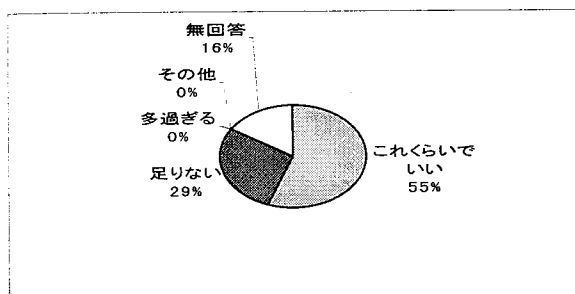
【日 本 人】



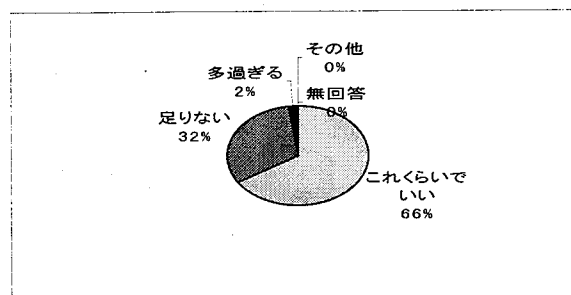
図表Ⅱ-1-2-12b 謝り方の過不足
(在伯日本人)



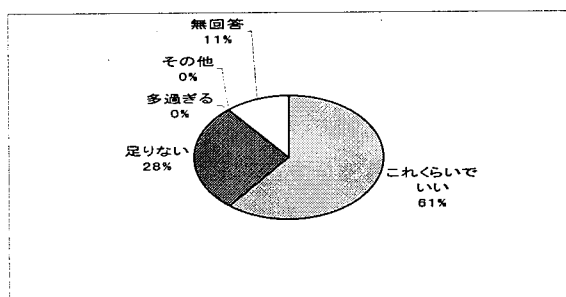
図表Ⅱ-1-2-12c 謝り方の過不足
(在仏日本人)



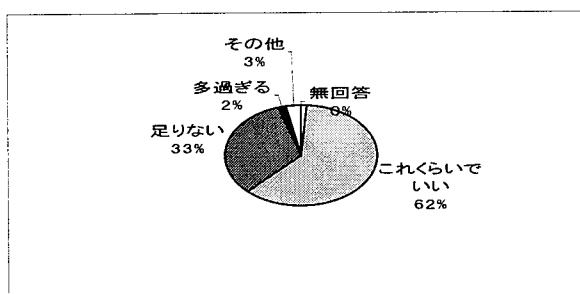
図表Ⅱ-1-2-12d 謝り方の過不足
(在米日本人)



図表Ⅱ-1-2-12e 謝り方の過不足
(在韓日本人)



図表Ⅱ-1-2-12f 謝り方の過不足
(在越日本人)

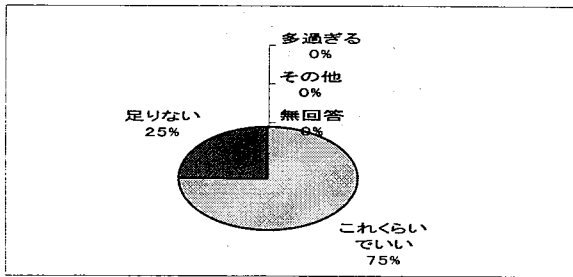


図表Ⅱ-1-2-12g 謝り方の過不足
(国内日本人)

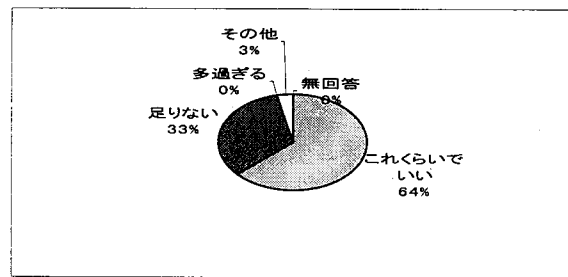
日本人ではどのグループでも、「これくらいでいい」とする回答の数が、「足りない」「多すぎる」といった、過不足があるという回答の2倍程度である。図表Ⅱ-1-2-11の「謝り方の適不適」の割合とも、それぞれほぼ同じくらいである。「足りない」「多すぎる」を合わせた、過不足があるとした回答の割合は、国内日本人と在仏日本人が35%で一番多く、続いて在韓34%、在米29%、在越28%、在伯20%となっている。このうち、在仏、在韓、国内日本人には、わずかではあるが、ビデオの謝り方が多すぎるとする回答がある。

続いて外国人の回答を見ていく。

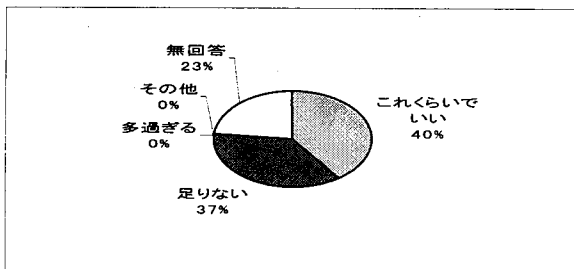
【外国人】



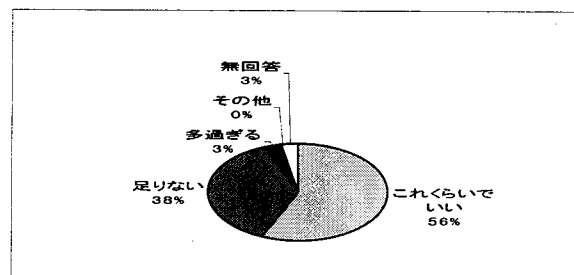
図表Ⅱ-1-2-12h 謝り方の過不足
(在日ブラジル人)



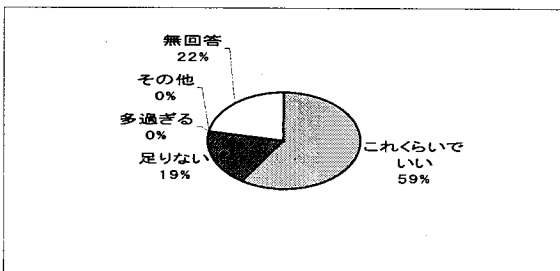
図表Ⅱ-1-2-12i 謝り方の過不足
(在日フランス人)



図表Ⅱ-1-2-12j 謝り方の過不足
(在日アメリカ人)



図表Ⅱ-1-2-12k 謝り方の過不足
(在日韓国人)



図表Ⅱ-1-2-12l 謝り方の過不足
(在日ベトナム人)

全体的に、外国人では日本人と比べてグループによる違いが大きい。過不足があった割合がもっとも多いのは韓国人の41%、ついでアメリカ人の37%、フランス人33%、ブラジル人25%で、一番少ないのがベトナム人の19%と幅がある。韓国人には多すぎるという回答も見られる。無回答があるため、はっきりとした傾向ではないが、

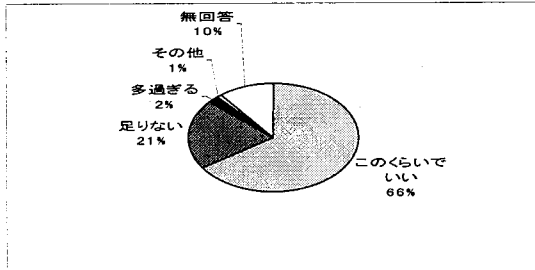
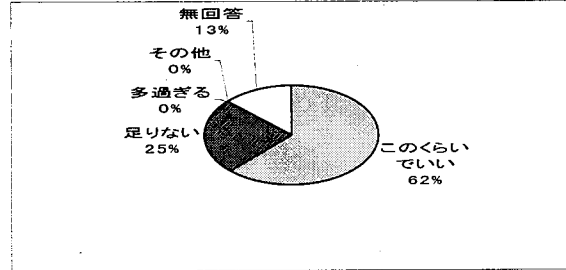
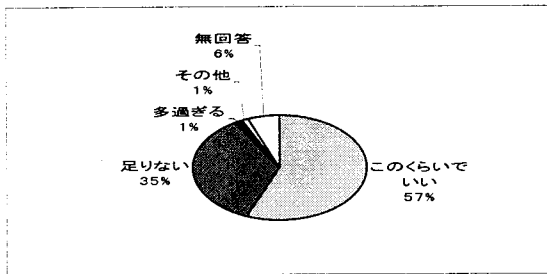
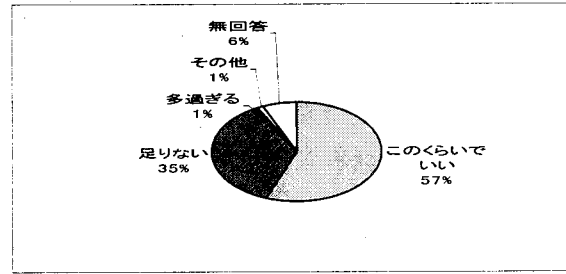
ブラジル人では75%が「これくらいでいい」としており、他のグループと比べ、この場面での謝り方の量をこれくらいでいいとする傾向が強いといえる。

また、この質問でも謝り方が適当か不適当かの質問と同様、男女差が現れており、「不適当」の項目と同様の結果となった。

図表Ⅱ-1-2-13a 謝り方の過不足・男女

単位 人

	このくらいでいい	足りない	多過ぎる	その他	無回答	合計
日本人男性	69	22	2	1	11	105
在日外国人男性	48	19	0	0	10	77
日本人女性	87	54	2	2	9	145
在日外国人女性	44	28	1	1	5	79

図表Ⅱ-1-2-13b 謝り方の過不足・男女
(日本人男性)図表Ⅱ-1-2-13c 謝り方の過不足・男女
(外国人男性)図表Ⅱ-1-2-13d 謝り方の過不足・男女
(日本人女性)図表Ⅱ-1-2-13e 謝り方の過不足・男女
(外国人女性)

ここでも、男性には「これくらいでいい」多いが、女性では「これくらいでいい」が半数以上ではあるものの、「足りない」の割合が多くなっている。「このくらいでいい」の割合が一番多いのは、「適不適」と同様、日本人男性である。「これくらいでいい」が66%、「足りない」と「多すぎる」が合わせて21%で、「これくらいでいい」が「足りない」の約3倍となっている。外国人男性では「足りない」は25%なのに対し、「これくらいでいい」が62%であり、日本人男性に次いで多くなった。日本人女性と外国人女性の割合は全く同じで、「このくらいでいい」が57%、「足りない」「多すぎる」が合わせて35%となった。

Ⅱ.1.2.4.3 不適当、過不足の内容

ビデオ場面の謝罪が不適当、あるいは過不足があると判断される理由は何だろうか。この場面の謝罪行動のどこがそのような印象を与えたかの詳細を、コメントから見ていきたい。コメントは、[1.2.4.]のすべての項目で述べられたことを対象とする。

ここでは、質問文中にある「言葉」「身振り」「表情」「タイミング」のほか、「誠意なし」を取り上げた。「タイミング」は、前述したように量の過不足ではなく、謝罪が行われる際の時間的なずれを問題としたものである。日本人用調査票では取り上げられていなかったが、調査では言及されることが多かったため、外国人用調査票には記載してある。「誠

意なし」は、いずれの調査票にも取り上げられていないが、言及されることが多く、謝罪の量や形式が問題なのではなく、行われた謝罪に対し気持ちが感じられない、心から謝っていない印象を受けるというコメントである。

日本人では、各グループに「言葉」「身振り」「表情」「タイミング」「誠意なし」が全体的に現れた。国内日本人には、「言葉」「表情」「誠意なし」が多く現れる傾向がある。外国人では全体的に「言葉」についてのコメントが多く、ベトナム人には、他のグループにはほとんど見られなかった「表情」に過不足があるという回答が現れている。外国人のいずれのグループにも「身振り」に関するコメントはほとんど現れない。以下、それぞれの内容ごとに、日本人、外国人をまとめて見ていく。

(1) 言葉

この場面の言葉としては、ビデオではぶつかった若い女性が、「すみません」と言って頭を下げるのみであったが、この言葉についてのコメントは、日本人・外国人を問わず現れている。謝り方の丁寧さのほか、言葉の量や発話の速度についても述べられている。言葉のみが足りないとした回答は全体の半分程度で、残りは他の点とともに挙げられた。内容はおもに、より丁寧にした方がいい、言葉の量を多くした方がいいという指摘であった。

○「言い方が軽すぎる。もっと丁寧に謝るべき」(在日日本人・男性・40代)

●「もっと言葉を返した方がいい。『スミマセンデシタ、気ヲ付ケマス』など」(在日ブラジル人・男性・30代)

○「もっとゆっくり言った方がよかった」(国内日本人・男性・10代)

逆に言葉が多すぎるとしたコメントも、2件だけではあるが、在日日本人に見られた。ぶつかった事情を説明として付け加えるべきだという回答もある。また、相手の安否への気遣いを示した方がいいという回答が、特に在日アメリカ人に多く見られた。

●「急いでいた事情を説明した方がいい」(在日ブラジル人・男性・30代)

●「言葉：繰り返す。近づいて『大丈夫デスカ』といった言葉をかける」(在日アメリカ人・男性・30代)

なお、適当とした回答には、どこが適当であるのかを述べたコメントは見られなかった。

(2) 表情

「表情」のみが足りないとしたのは、1/3ほどで、残りは他の点も挙がっている。「表情」で不足とされたのは、言葉や身振りについてのコメントにも現れる、心から謝っていないという指摘で、特に笑っていることに着目したコメントが多かった。

○「『スイマセン』という顔ではない。ニコッと笑っている」(在日日本人・男性・30代)

●「叱られたから謝ったが、本当は謝りたくないような感じ。ニコニコしている」(在日ベトナム人・女性・20代)

○「すぐ謝らなかった。笑っていて誠意が感じられない。怒られたから謝ったという印象。ニコッと笑って『ヤッチャッタ』という感じ」(国内日本人・女性・30代)

なお、この場面での謝り方を適当、過不足はないという回答では、「顔は明るい。笑っ

ていた」(ベトナム人・男性・30代)「本当の気持ちが表情に出ていた」(在韓日本人・男性・50代)のように、笑いや表情を評価するコメントがあった。

なお、前述のⅡ.1.2.2.3.で述べたように、ベトナム人の行動については、日本人に「笑ってごまかす」「知らぬふりをする」という回答が見られた。しかし一方で、このビデオの笑いに対しては、以下に示すように否定的な印象を持つという回答がベトナム人に多く現れている。ビデオ場面の若い女性の笑い方は、日本ではよく見られる、お辞儀をしながらのいわゆる照れ笑いである。

- 「顔はちょっと足りない。謝りたい気持ちがない。言葉はいいが、顔でもっと表現した方がいい。身振り：本当に謝っている。表情：ニコニコしている」(ベトナム人・女性・20代)

言葉と身振りが謝罪を表現しているのに、同時に笑うという矛盾した態度がよくない、ということであろうか。このビデオでの照れ笑いとは、ベトナム人の行動として日本人が報告している「笑ってごまかす」という笑いとの間には、質の違いが存在すると思われる。また、調査対象となったベトナム人自身が、そうした笑い方について意識しているためにビデオ場面の笑い方についても強く反応したという可能性もある。このほか、表情に甘えがあるとした次のようなコメントもあった。

- 「そこまできつくいわれると思っていなかったのだからばつが悪い。とりあえずその場の雰囲気円滑にしようという目つき。ちょっと甘えたような」(在米日本人・女性・30代)
- 「少し媚びがある。もう少し真剣な顔でいうべき。『ゴメンナサイ』という言葉はいいが、恥ずかしいのか甘えがある」(在仏日本人・男性・30代)

(3) 身振り

「身振り」に関してここで述べられているのは、おもに「お辞儀」である。日本人には、お辞儀のしかたについて、不足しているというコメントがあるが、外国人ではほとんど見られない。内容的には、軽すぎる、特に頭の下げ方がペコッとしているという回答のほか、あのように立ち止まって深くお辞儀をする必要はないとする回答もあり、ビデオでのお辞儀を、軽いと取るか、深いと取るかについては人によって幅が見られる。

- 「ペコッと頭を下げたが、もう少し丁寧に深く下げたほうがいい」(在伯日本人・女性・50代)
- 「相手に向き直って丁寧に謝るべきだ」(在韓日本人・男性・40代)
- 「お辞儀が深すぎる」(在韓日本人・男性・30代)

このほか、立ち止まって謝る様子が子供っぽいとするコメントもあった。一方で、「頭を下げてちゃんと相手を見て言っている」(在仏日本人・女性・20代)「相手の方に向き直り、深々とお辞儀をした。てきぱきと若々しく謝罪した」(在越日本人・男性・30代)のように評価する回答もある。このビデオ場面のお辞儀は、言葉や表情にも影響された全体的な印象として捉えられ、被調査者によって、印象の差が現れた項目であった。

(4) タイミング

「タイミング」に関しては、それのみがよくないとしたのは、全体の3分の1程度である。

おもに、ぶつかったときにすぐ謝った方がよかった、相手からいわれる前や、ぶつかったときにすぐ言った方がよかったとする回答が多い。しかし、一方で相手から抗議されなければ自分から謝ったのではないか、このビデオの場合には、たまたまタイミングを失しただけではないかという見方もあった。

○「謝るタイミングが遅い」(在伯日本人・男性・40代)

○「相手にいわれる前に謝るべきだった」(国内日本人・女性・50代)

●「言葉はいいが、タイミングが遅かった。ぶつかった時にいった方がよかった。何もいわれなければ、自分では謝ろうと思っていたのではないか」(在日フランス人・女性30代)

なお、タイミングがよいとして、評価するコメントはなかった。

(5) 誠意なし

「誠意なし」は、今まで見てきた行動の諸要素とは観点を異にする。表情、身振り、タイミングなどから、心から謝っている様子が感じられない、本当は謝りたくないように見えるというコメントであり、どのグループにも現れている。そうした印象を与える原因としては、笑っているということが大きな要素となっていると考えられる。一方、言葉が足りなくても、表情に謝る気持ちが出ていればいい、という回答も見られ、言葉としては丁寧に謝っているにもかかわらず、表情などが謝罪を表現していないときに抵抗を感じるという傾向がありそうである。

○「心から謝っていない感じの軽い口振り。謝り方が短く、声のトーンも高くて、悪いと思っていないような軽い感じ」(在越日本人・女性・20代)

○「いわれちゃったから謝る、という感じがよくない」(国内日本人・女性・30代)

●「社会的にこういう行動をしなければいけないと思ってちゃんとやっているのだが、心から謝っていない。普通はこういうときに笑わない」(在日フランス人・男性・40代)

●「上っ面の感じ。心から謝っていない。真剣さが足りない。日本の習慣どおり頭を下げ謝っているが、自分のやったことを軽く思っている」(在日ブラジル人・女性・60代)

なお、おもに「これくらいでいい」とした回答には、逆に、心からの謝罪であると評価するコメントも多く見られた。

○「心から謝っている感じでよかった」(在伯日本人・男性・40代)

○「言葉少なだが、感じがいい対応(仕草)。感じがいい表情」(在越日本人・男性・30代)

適当不適當と過不足についての回答を比較すると、フランス人では、「不適當」が「足りない」よりもやや多くなっている。これについては、次のようなコメントが見られた。

●「言葉がちょっと弱いので不適當。相手のことを心配していないが、日本のスタンダードな謝り方としては普通で過不足はない。丁寧だが、いわゆる日本スタイル」(男性・30代)

●「言葉はいいがタイミングが遅く不適當。謝り方はこれくらいでいい」(女性・30代)

前者は、言葉には不適當なところがあるが、それは日本的な謝り方であって過不足はないとしたものであり、後者は、タイミングは不適當だが、量としては過不足はないとしたものである。

在日ベトナム人でも、前の質問項目で「不適當」とした回答と比べ、「足りない」とした回答が少なくなっている。これについては、以下のコメントが見られた。

●「謝るときににこにこしているのは失礼。真面目でないので不適當。謝り方はこれくらいでいい」(男性・20代)

●「タイミングが遅いが、謝り方はこれくらいでいい」(女性・20代)

全体的に見ると、「適當」「これくらいでいい」という回答が多かった男性被調査者には、コメントとしても肯定的な回答が多い。一方、女性では「適當」「これくらいでいい」としていても、「表情、身振り：笑ってごまかしている。かわいこぶっている」(在米日本人・女性・20代)のように否定的なコメントも同時に述べられることが多く、この場面の若い女性の謝り方に対する見方が、現れた数字以上に否定的になる傾向が見られる。

Ⅱ.1.2.5 日本の謝罪行動と対照国の謝罪行動

ここまではビデオの場面をはじめとして、具体的な状況を提示して質問してきたが、ここからは、質問内容をやや抽象化、一般化し、対照国で行われる謝罪行動と日本での謝罪行動を比較してもらう。ビデオでの若い女性の謝り方を一応日本の謝罪行動とし、これと対照国での謝り方と比較することになるが、ここで取り上げたビデオ場面が、日本での謝罪行動として、一般的と言えるかどうかについては考慮の余地があろう。ここではビデオ場面のいわゆる日本らしさについては問題とせず母国や対照国との比較の際の手がかりとして扱った。この場面の謝罪行動が日本のそれと違うという被調査者の指摘はごくわずかであったので、少なくとも、これは日本における謝り方のバリエーションの一つとしては自然だと考えられたと思われる。

Ⅱ.1.2.5.1. 同じか、違うか

まず、この場面の謝り方と対照国の謝り方が同じか、違うかを問う質問項目を取り上げる。この質問の解釈には、被調査者により多少の揺れが見られた。言語形式を中心とした全体的な印象を比較している場合と、身振りや表情の細部にわたって比較し、異同を述べている場合とがある。例えば、全体的な印象としての回答には、大体同じだろうと答えつつ、後に続くコメント部分で「ただし頭は下げない」と答えているというようなことがある。集計は基本的には、被調査者により回答された、①か②の選択肢により行ったが、上記のように明らかに相違点に言及している場合には、「②違う」として整理したことがある。詳細はコメントから見ていくこととし、質問文は以下の通りである。

【質問文】

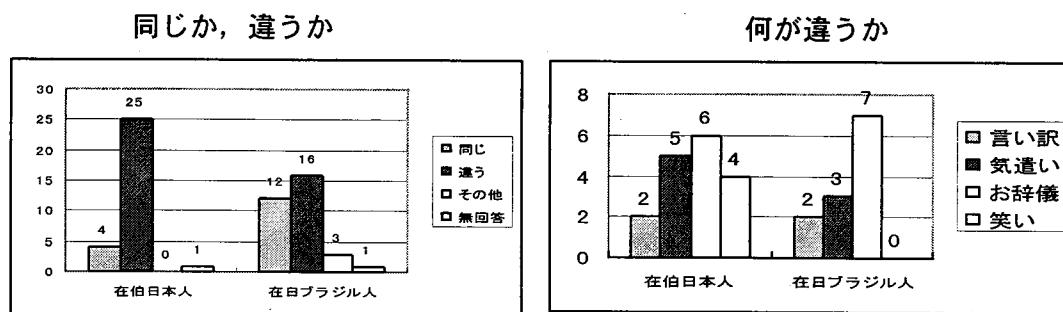
1.2.5 同じ場面が、もし「この国/母国」で、「この国/母国」の人間同士の間で起きたとしたら、あやまる方は、この日本の「映像/ビデオ」と違った謝り方をすると思いますか？それとも、大体同じような謝り方でしょうか？

- ①大体同じだろう 言葉： 身振り： 表情：
②異なるだろう 言葉： 身振り： 表情：

以下、日本人と外国人の回答を比べつつ、対照5カ国と日本の比較を行っていく。「①大体同じだろう」「②異なるだろう」の選択肢による結果を左側の「同じか、違うか」のグラフにより示し、「②異なるだろう」を選択した場合に述べられた相違点を、右側の内容で示した。

相違の内容として、調査票に例として挙げてあるのは、「言葉」「身振り」「表情」である。「言葉」に関係する内容としては、呼びかけの言葉を付け加える、言い訳や理由をいう、安否を尋ねる言葉を付け加える、などがあった。「身振り」については、言及されたのはおもにお辞儀であり、そのほかでは、肩に手をかける、振り返って立ち止まらない、相手の目を見る等が挙げられている。「表情」では、笑わないという回答が多く、このほか、真剣な表情をするという内容のコメントがあった。

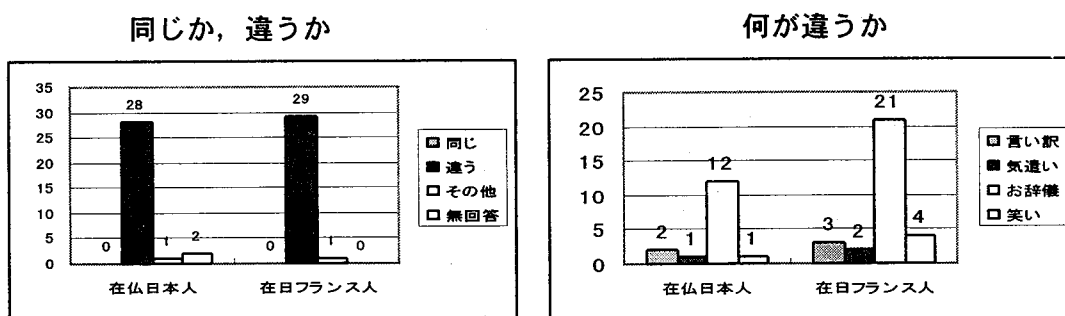
しかし、相違点については、これら以外にも、多様なものが挙げられ、また全体数も少ないので、「言葉」「身振り」「表情」ではなく、回答中に多く現れた「言い訳」「気遣い」「お辞儀」「笑い」の4つを取り上げ、これについて、どのくらい言及されているかを数で示すことにした。一つの回答で複数の相違点が挙げられている場合もそれぞれを1つとして数えた。「言い訳」はぶつかった理由を言ったり、言い訳をしたりするか否かの違い、「気遣い」は相手の安否を尋ねるなどのいたわりを表現するかどうか、「お辞儀」は頭下げの有無、「笑い」は謝るときに笑うか否かである。調査票の例に基づけば、「お辞儀」は「身振り」に、「言い訳」は「言葉」、「笑い」は「表情」にそれぞれ分類されよう。「気遣い」については、その内容により「言葉」や「身振り」に該当する。いずれにしても「何が違うか」のグラフは、参考程度に留め、内容の詳細はコメントを中心に見ていくことにする。



図表Ⅱ-1-2-16a 日本とブラジルの違い

単位 人

ブラジルと日本の謝り方を比較すると、日本人では「違う」とする回答が大部分であるが、ブラジル人では「同じ」と「違う」に回答が二分される傾向が見られる。違いの内容としては、日本人、ブラジル人とも「お辞儀」が多く挙げられた。日本では謝るときにお辞儀をするが、ブラジルではしないという回答である。しかし、ブラジルでもこのビデオのように体を折り曲げたお辞儀はしないが、軽く頭を動かしたり、頭をちょっと下げるくらいはするという回答もあった。また、ブラジルでは、肩に手をかけながら、怪我をしなかったか聞くという「気遣い」を示すとした回答も多く、親しみを込めた身体的な接触があることが日本と違う点であるとしている。「笑い」は、この場面ではぶつかった側が、お辞儀をして謝りながらニコッと笑うのであるが、在伯日本人に、「ブラジルでは、謝るときには笑わずに、直後にニコッとする」(女性・30代)『ゴメンネ、悪気ナインダカラ』という意味でニコッと微笑む」(男性・30代)というコメントが見られた。ビデオの女性の照れ笑いのような微笑みについては、ブラジルを含め、どのグループでも指摘されているが、ブラジルでは、謝った後に、意図してぶつかったわけではないこと、悪意はないことを示すために笑うことはあるものの、ビデオのように、笑いながら謝ることはないとしている。これ以外には、ブラジルでの謝り方は、「身振り手振りで」「簡単に明るく」(日本人)、謝り方に「ハラハラした感じが無い」(ブラジル人)などが出ており、ビデオの緊張した感じとは違うものであると指摘している。

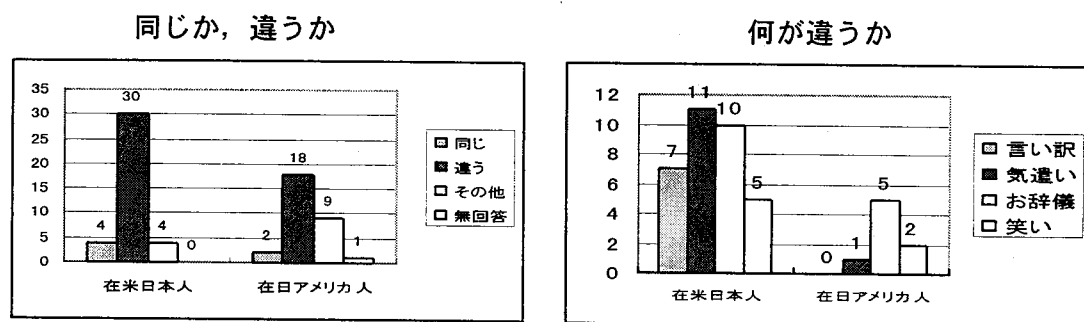


図表 II-1-2-16b 日本とフランスの違い

単位 人

日本とフランスでは、日本人、フランス人ともほとんどが「違う」と回答しており、「同じ」とした答えはなく、その点では両者の見方は一致している。多くが「お辞儀」をあげ、フランスではお辞儀はしないとしている。そのほか、フランスでは「ビデオのように丁寧には謝らない。注意されて不満に思っているから、相手の顔を見ない。『Pardon』といってすぐ立ち去る」(フランス人・女性・30代)「悪いことをしたという顔をしない」(日本人・男性・40代)というコメントがあり、一方で「自分が悪いと思えば、言葉、表情、態度などをきちんとして謝る」(日本人・男性・30代)「一般的にどう思われるかということではなく、自分が悪いと思っているかどうかということが重要」(日本人・男性・30代)という回答もある。自分に非があると認識するかどうかが行動の基準となる傾向が見られる。また、ビデオの女性の笑いについて、「フランスでは、笑って謝ったりすると馬鹿にしている感じを相手に与えてしまう。表面だけで、無視しているということ。もっと怒られる」(フランス人・男性・40代)とするコメントがある。この「お辞儀」と「笑い」以外、特に「言葉」は日本とフランスは同じとする回答も多かった。図表 II-1-2-6で、フラ

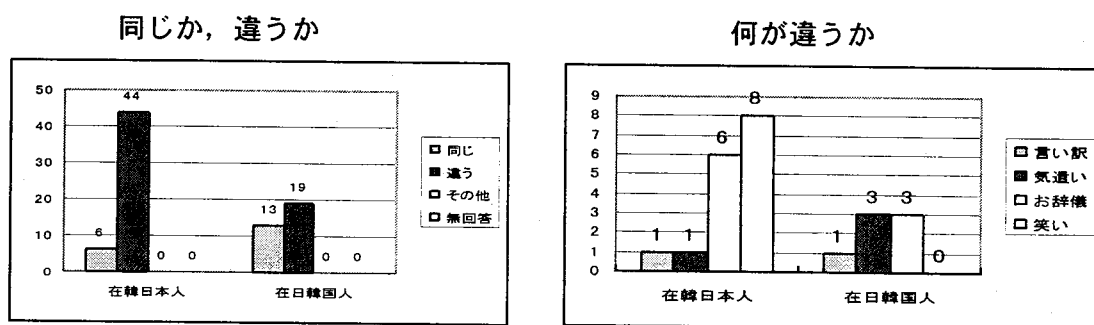
ンス人のフランスと日本での行動、およびフランス人により観察された日本人の行動がほとんど一致していたのも、言語表現としては類似していると考えられたことが関係していると思われる。



図表Ⅱ-1-2-16c 日本とアメリカの違い

単位 人

日本とアメリカの比較でも、日本人、アメリカ人とも「違う」とする回答が多くなっている。アメリカではお辞儀をしない、という回答が多いが、日本人にはこのほか、アメリカでは、この場面のように笑わない、ぶつかった理由を言う、体に触り『大丈夫デスカ』と聞く、表情や口調にもうちょっと誠意がこもる、などが出ている。アメリカ人でも「もっと手を使う」「アイコンタクトがある」というように、動作などでもっと謝罪の気持ちを表現するという回答があった。Ⅱ-1-2-2で述べたように、アメリカでは、謝罪を行う際の言語形式上の丁寧度が高い傾向が見られたが、ここでのコメントからは、ぶつかったときに言葉だけでなく、表情、口調、動作などをも使用し、より積極的な関係修復行動が行われることが示唆されている。このほか、特にアメリカ人には、ぶつかった人による行動の違いを指摘する回答があった。

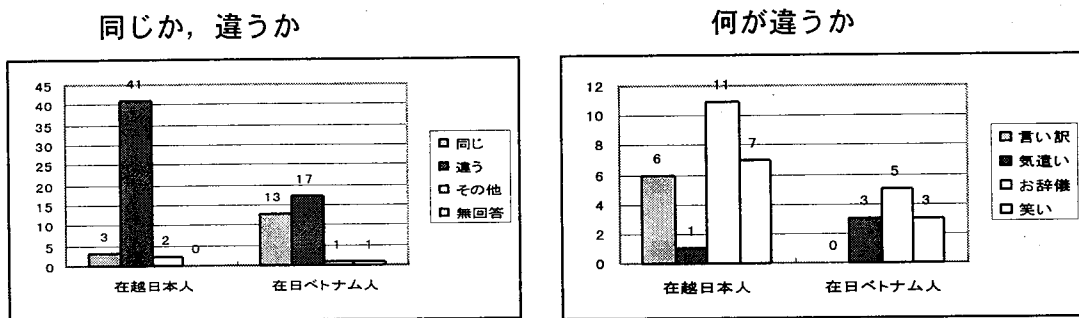


図表Ⅱ-1-2-16d 日本と韓国の違い

単位 人

日本と韓国については、日本人側に「違う」とする回答が圧倒的に多く、韓国人では、「同じ」「違う」が拮抗した分布となった。違いの内容としては、日本人では、おもに「笑い」「お辞儀」が挙がっている。内容としては、韓国人はこの場面のように笑わない、深いお辞儀をしない、というものであった。「何もしない。ただ、韓国では年上に対しては謝る」(日本人・男性・40代)「韓国の人には相手が年上であれば絶対笑わない。言葉も姿勢ももっと丁寧に謝る」(日本人・男性・30代)という回答に見られるように、年齢や目上目下という基準が存在することを述べた回答が日本人に見られる一方で、韓国人の回答に

は、「おばさんが冷たくしたので、若者も冷たい感じになると思う」（韓国人・女性・20代）
「韓国語で年配の人に同じように言われたら、丁寧には謝らないと思う」（韓国人・女性・30代）というコメントがあり、年齢や上下関係について述べたコメントはなかった。全体的には「謝らない。お互いに平然としている」（日本人・男性・50代）「ぶつかって気にするような国民性ではないと思う」（日本人・女性・20代）「謝らない人も多い。わざとぶつかったのではない」（日本人・男性・30代）など、もともとぶつかりに対する捉え方が違うのだとするコメントが多い。



図表Ⅱ-1-2-16e 日本とベトナムの違い

単位 人

ベトナムは、日本人の大部分が「違う」と回答しているのに比べ、ベトナム人は「違う」と「同じ」が拮抗する。この傾向は韓国と同様である。違いの内容を見ると、日本人では、「お辞儀」「言い訳」「笑い」が多い。特に笑いに関しては、日本人に、「ベトナム人は曖昧に笑ってごまかす。叱られている理由が不明でも、単に文句を言われていることに対して笑いでごまかす」（男性・40代）「もっとヘラヘラと明らかにごまかす笑い」（女性・20代）というようなコメントが多い。ごまかすための笑いを見る一方で、「一瞬笑って、そこから去っていく。去るための一つのきっかけとして笑う感じ。笑いの中でこの場を『モウイジャナイ』とうまくまとめるための笑いを投げかけて去っていく。迫力のある笑い」（日本人・男性・30代）というように、場の緊張感を取り去り、事態を收拾する役割を持った笑いであると指摘するコメントもあるが、いずれにせよ、ベトナムの笑いはビデオ場面とは質を異にし、さらに前述のブラジルの、謝った後に悪気がなかったことを示すための笑いとも違うようである。「お辞儀」については、ベトナム人には、「頭は下げない」というコメントと、「頭も下げて同じように謝る」というコメントの両方が現れている。また、韓国と同様、日本人には、ベトナムではそもそも謝らないというコメントが見られた。

以上、各国ごとに見てきた。前述の図表Ⅱ-1-2-14の過不足の内容を尋ねた質問項目では、不適当あるいは過不足の内容として、日本人は、「お辞儀」を挙げることが多く、一方で外国人ではほとんど言及されていなかったが、この「日外の謝罪行動の違い」の項目では、「お辞儀」が違うとする回答が、どのグループでも現れている。内容は、対照5国ではお辞儀をしない、もしくはこの場面のような深いお辞儀をしないというコメントである。不適当、過不足の内容として「お辞儀」が外国人の回答に現れなかったのは、もともと対照5カ国ではこの場面のようなお辞儀をすることがないので、その適切さについて判断することができなかったためであろう。

Ⅱ.1.2.5.2. どちらが丁寧か

前節では、日本の謝罪行動と対照国の謝罪行動を比較し、その相違点について見てきた。引き続きビデオの若い女性の謝り方と、これを対照国でのできごとに置き換えた場合の謝り方を、丁寧さという観点から比較していく。質問文は以下の通りである。

【質問文】

1.2.5.

SUB. SUB そのような謝り方は日本の謝り方と比べてどんな印象を持ちますか？

①一般的に、日本の方がそっけない（簡単・軽い）。
 [この国／母国]の方が丁寧（きちんとしている）。
 SUB.たとえば、どんなところが？
 言葉：身振り：表情：

② ” [この国／母国]の方がそっけない（簡単・軽い）。
 日本の方が丁寧（きちんとしている）。
 SUB.たとえば、どんなところが？
 言葉：身振り：表情：

この質問もまた、前問同様、ビデオの場面をひとつの手がかりとして、両国での謝罪の行われ方を比較してもらうものである。結果は、以下ようになった。

図表Ⅱ-1-2-17a どちらが丁寧か（対照国と日本）

単位 人

	①対象国が丁寧	②日本が丁寧	同じ	その他	無回答	計
在伯日本人	3	2	0	16	9	30
在日ブラジル人	1	2	8	9	12	32
在仏日本人	5	13	0	7	6	31
在日フランス人	0	9	3	16	2	30
在米日本人	16	1	0	18	3	38
在日アメリカ人	3	4	3	12	8	30
在韓日本人	11	24	0	14	1	50
在日韓国人	0	10	8	11	3	32
在越日本人	1	19	1	20	5	46
在日ベトナム人	3	14	7	3	5	32

日本、対照国のどちらの謝り方が丁寧かを回答することは困難であったことが、「その他」「無回答」が多いことから窺える。ぶつかった人による違いや相手との年齢差、ぶつかった場所、状況による違い、さらにはどのくらいの接触をぶつかったと意識するか、また、そのことを自分に非があることと認識するかどうかなど、さまざまな要素が存在するためであろう。さらに、形式上の丁寧さではなく、心がこもっているかどうか等重要であるなど、丁寧さをはかる基準にも質的な違いがあるため比較が難しかったということがありそうである。コメントにも「それぞれよいやり方がある。そうした違いがあるので比較はできない」（フランス人・男性・20代）「反応の違いであって、フランスの方が丁寧

であるとか、日本の方が丁寧であるという問題ではない」(フランス人・男性・30代)「軽いとか重いとかいえない」(アメリカ人・女性・20代)のように、どちらが丁寧かを比較することができない、難しいといったコメントが見られる。ビデオの謝り方が笑いを伴っていることから、謝罪の気持がないのではないかと、形だけ謝っているのではないかとするコメントが多く見られたことは、すでに述べたとおりであるが、丁寧さについての質問項目についても、このことに言及したコメントが多い。以下、国別に結果を見ていく。

日本とブラジルに関しては日本人、ブラジル人ともに、どちらかが丁寧であるとした回答はごくわずかであり、大部分が「その他」「無回答」になっている。在日ブラジル人には「同じ」とする回答も8件ある。日本とフランスについても、「その他」「無回答」が日本人、フランス人ともかなり多い。特にフランス人には「その他」が16件となっている。これらを除けば、両グループとも「日本の方が丁寧」とする回答が多い。アメリカとの比較でも、在米日本人、在日アメリカ人ともやはり、「その他」「無回答」が多く、日本人でそれぞれ18件と3件、アメリカ人で12件と8件となった。日本人では、「アメリカの方が丁寧」とする回答が16件とほとんどである。日本と韓国では、日本人に、「日本の方が丁寧」とする回答が24件と多いが、一方で「韓国の方が丁寧」という答も11件見られる。韓国人には、「韓国の方が丁寧」とした回答はなく、「日本の方が丁寧」が10件、「同じ」8件となっている。日本とベトナムの比較では、日本人には「日本の方が丁寧」が19件、「その他」が20件で、ベトナムでは「日本が丁寧」が14件と多かった。

全体的に見ると、「日本が丁寧」とする傾向があるのは在日日本人、在日フランス人、在韓日本人、在越日本人、在日ベトナム人である。フランスとベトナムについては、日本人とフランス人・ベトナム人の印象が一致している。在日韓国人には「同じ」や「その他」とする回答も多いものの、日本人が丁寧とする回答が10件あり、韓国の方が丁寧とする回答はないので、フランス、ベトナムと同じく日本の方が丁寧と見る傾向が強いといえよう。アメリカは、在米日本人にアメリカの方が丁寧と考える傾向が強いが、全体的に「その他」も多く、ブラジルについてもはっきりとした傾向は見られない。在日ブラジル人では、日本とブラジルの謝り方の丁寧さは同じと考える傾向が見られる。以下、何をもって丁寧としているのか、その内容を見ていくことにする。

まず、言葉や身振りの上で、形式的な丁寧さがあるかどうかが挙げられる。日本には、お辞儀をはじめとした形式面から見た丁寧さがあるとしたコメントは全体的に多く現れている。形式として丁寧ではあるが、それはパターン化されたものであるとするコメントも多い。

- 「日本の方が頭を下げる分だけ丁寧」(在日日本人・女性・30代)
- 「日本の方が形式的、社交的。謝りたなくても言葉では謝る。内容がない。ベトナム人はもし自分が謝りたくなかったらいわない」(ベトナム人・女性・30代)
- 「日本は礼儀の世界という感じ」(在日日本人・男性・30代)
- 「日本は表向きはそんなにやるかというほど態度が丁寧。韓国は自分が本当に謝りたい気持ちがなかったら口だけで謝ることは日本より少ない」(韓国人・女性・30代)

これと反対に、実質的なコミュニケーションや、心からの謝りの気持があることが丁寧さであるとした回答もある。特にブラジルでは人間関係が温かいとする回答、アメリカで

は心から謝るという回答が多く現れており、その他の国でも日本より内容のある謝罪をするという回答がある。

○「ブラジルではうるさいくらい丁寧。親愛の情が深い。日本は慇懃無礼」(在伯日本人・女性・70代)

●「謝る内容から言えば、ベトナムの方が丁寧。形式的でなく、内容がある」(ベトナム人・男性・20代)

○「アメリカの方が心配している、心から言っているという感じがする」(日本人・女性・50代)

また、謝罪を言葉だけではなく、身振り、態度、表情で示すことが丁寧であるとした回答もある。これはおもにブラジル、アメリカ、フランスに見られる。

●「ブラジルではもっと身振りや態度で表す」(ブラジル人・男性・20代)

●「日本では表情があまりない。アメリカでは表情で気持ちを表す」(アメリカ人・男性・30代)

以下は、どちらかが丁寧とした回答ではないが、人による違いに言及した回答である。まず、ぶつかった人によるという回答は全体的に現れている。

○「アメリカ人は無視するか、礼儀正しい人ならきちんと謝るのどちらか」(日本人・女性・30代)

ぶつかった相手が年上だった場合には丁寧になる、という回答も韓国・ベトナムに見られる。

○「年齢差のある相手とぶつかったりしたら、年下の人はかなり気を遣って謝る」(在韓日本人・女性・30代)

○「相手が年上の時は韓国の方が丁寧。それ以外は日本が丁寧」(在韓日本人・女性・40代)

年上には丁寧に謝るというコメントは、在韓日本人には多く見られるが、なぜか韓国人には見られなかった。韓国と日本の謝り方が同じか、違うかでもやはり、韓国人にはこうしたコメントがなかったが、なぜなのかは今のところはっきり分らない。コメントの内容などからさらに詳細に見ていく必要がある。

II.1.2.6. 身体的接触のとらえかた

これまで、ぶつかった側の謝罪行動について見てきた。これまでに得られたコメントから、そもそもぶつかり自体を謝罪を行うべき状況と認識するかどうか、グループ間で大きな違いがあることがわかった。韓国やベトナムに見られたように、ぶつかった人が何の行動も行わないという場合、そこでは人とぶつかったり接触したりすることを、謝罪を行うべき状況と捉えない場合があることが窺えた。

ここでの質問は、今まで尋ねてきたピルの廊下での接触という範囲をさらに広げ、より一般的な身体的な接触について尋ねる。いわばぶつかりが起こったときに謝罪がどのように行われるかの前提として、他人との接触をどのように感じているかを見る項目である。今までの質問が、ぶつかりが起きた後の対処方法、つまり対人的関係修復のあり方を問題にしているとすれば、ここでの質問は、ぶつかりを修復が必要な事態と捉えるかどうかを

調べるためのものであるといえる。この質問項目は、謝罪に関連すると同時に、前章で述べている、ぶつかった時に抗議がどのように行われるかにも関係する。

以下の質問文の〔1.3.〕日本と対照国での身体的接触の受け止め方の違いについての質問と、〔1.4.〕被調査者自身の経験についての質問は別項目であるが、内容的には関係が深いのでコメントとしてはまとめて取り上げることにする。

【質問文】

1.3.〔この国/日本〕と〔日本/母国〕を比べて考えてみてください。

一般的にいて、通りすがりの人など他人の体と自分の体が触れるということについての受け止め方（感じ方）は、〔この国/日本〕と〔日本/母国〕とで違うと思いますか？ それともあまり違いませんか？

①あまり変わらない ②日本の方が気にする ③〔この国/母国〕の方が気にする

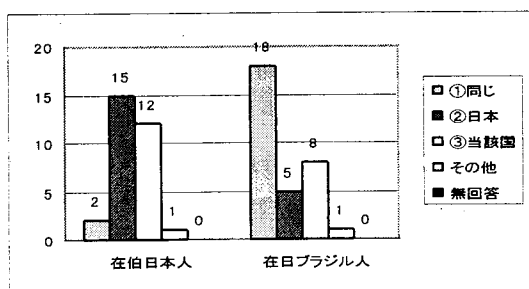
1.4. 通りすがりの他人と体が触れた（ぶつかった）時の経験で、〔この国/母国〕と日本とで、何か違うと感じた経験、あるいは、何かトラブルのような経験はありますか？

質問文〔1.3.〕の結果は以下に示すようになった。

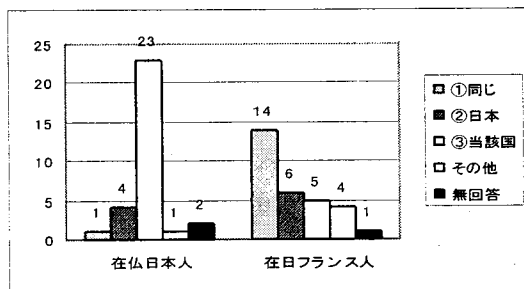
図表Ⅱ-1-2-18a 接触をどちらが気にするか

単位 人

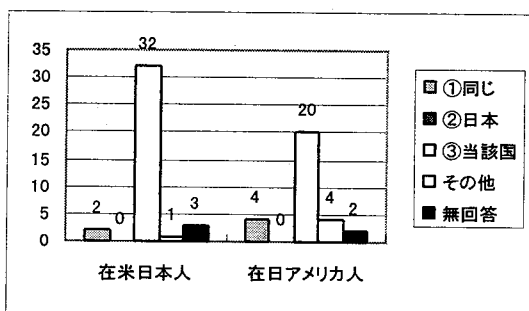
	①同じ	②日本	③当該国	その他	無回答	計
在伯日本人	2	15	12	1	0	30
在日ブラジル人	18	5	8	1	0	32
在仏日本人	1	4	23	1	2	31
在日フランス人	14	6	5	4	1	30
在米日本人	2	0	32	1	3	38
在日アメリカ人	4	0	20	4	2	30
在韓日本人	2	47	0	1	0	50
在日韓国人	3	28	1	0	0	32
在越日本人	0	44	0	2	0	46
在日ベトナム人	6	16	2	6	2	32



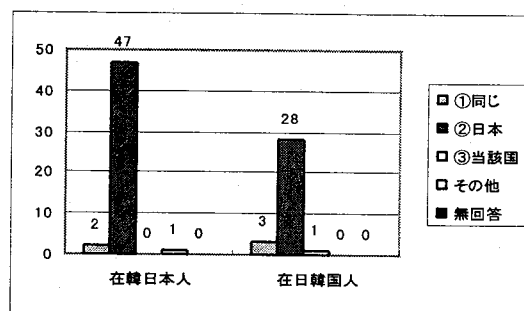
図表Ⅱ-1-2-18b 日本とブラジル



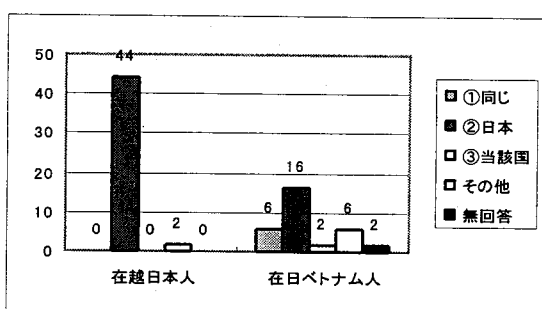
図表Ⅱ-1-2-18c 日本とフランス



図表Ⅱ-1-2-18d 日本とアメリカ



図表Ⅱ-1-2-18e 日本と韓国



図表Ⅱ-1-2-18d 日本とベトナム

日本とブラジルについて、日本人の回答は「日本人の方が気にする」15件と、「ブラジルの方が気にする」12件とに分かれている。ブラジル人では「同じ」が18件ともっとも多く、「日本の方が気にする」「ブラジルの方が気にする」がそれぞれ5件と8件である。在伯日本人では、日本とブラジルのどちらが気にするかで回答が分かれても、両国の身体的接触の感じ方は違うと考える人が多く、ブラジル人は同じであると考えて人が多いという結果になった。「同じ」という回答には、大都市ではどこでも同じであるというコメントが多い。全体的には、ブラジルでは、日本と比べて親しい人と挨拶をする際に身体的な接触があり、また人と話すときの距離も近いが、一方で他人との間に距離をとるというコメントが多く現れている。「日本の方が気にする」の内容は、日本はよそよそしい、事を荒立てる、ぶつかりを気にするということであった。「ブラジルの方が気にする」では、ぶつからないように気をつける、お互いによけ合うというコメントが見られる。

日本人とフランス人では、双方の印象の不一致が見られる。日本人の大部分が、フランスの方が接触を気にすると答えているが、フランス人では両国とも同じという回答が一番多く、日本の方が気にするという回答と、フランスの方が気にするという回答もほぼ同数となっている。「フランスの方が気にする」では、フランスの方が神経質、他人との接触に気をつかうことが習慣的になっている、ちょっと触れただけでも自然に言葉が出るのは気にしているからだろう、などのコメントが見られた。「同じ」では、普通の人ならどちらでも気をつける、都会は同じなどのコメントがある。

アメリカについては、日本人、アメリカ人とも、「アメリカの方が気にする」と答えており、双方のイメージは一致しているといっていよい。アメリカではぶつかられることがない、体が触れることはあってはいけないこと、アメリカ人には体の回りに自分のスパー

スが存在する、などのコメントが見られる。アメリカではぶつかった際に言語化して謝る傾向が強く、また日本と比べると関係修復行動が盛んに行われる傾向も見られたが、それはここで述べられているように、ぶつかりが他人のプライベートな空間を脅かすと考えられることと関係があろう。

韓国についても、日本人、韓国人ともほとんどが「日本の方が気にする」と答えており、印象は一致している。コメントに、韓国人は接触に無頓着、ぶつかりは何でもないこと、対人距離が近い、日本の方が敏感に反応する、などが見られる。

ベトナムと日本の比較でも、「ベトナムの方が気にする」という回答はほとんどなく、特に日本人はほとんどが、「日本の方が気にする」と答えている。コメントとしては、ベトナムでは対人的距離が近い、スキンシップが多い、親しい人にはべったりする、などが見られるが、ベトナム人には、日本の方が人数が多い、日本人の感覚はよくわからないがどちらも同じように気にしているといった、質問に対するとまどいを含んだコメントが現れている。

以下では、得られたコメントを、その内容から見ていく。

(1) 対人的距離の違い

対人的な距離については、ブラジルとアメリカに、親しい人とは挨拶などの身体的接触があるというコメントが多く見られた。

○「アメリカでは、親しい人と親しくない人の区別がすごくある。ちょっと親しいだけでも会った時に抱き合ったりとか、肩を叩いたりとかするが、親しくないとは他人とのスペースをすごく取りたがるような感じがする」(在米日本人・女性・20代)

●「アメリカでは体の回りに個人的なゾーン(スペース)がある。.....アメリカではボディコンタクトは友達であることを表す」(アメリカ人・男性・30代)

○「友達や人と話す時の距離感はブラジルの方が近い(同性同士が抱き合う。肩に手を回す)。」(在伯日本人・男性・30代)

これらの国では、その反面、他人との接触については気をつけており、また、やむをえず触れる場合には声掛けが行われるというコメントもある。

●「日本では触れても何もいわない。ビデオ屋などでも、棚を見ているときに、何もいわずに横や後ろからスッと手が伸びてきてビデオを取っていく。一言かけるのが普通だと思うが」(ブラジル人・女性・30代)

他人と一定の距離をとる傾向があるという点では、フランスも共通している。

○「フランスでは人にちょっとでも触れるということが失礼なことだと考える。細い道であれば、相手が通り終えるまで待っている。日本ではかまわずお互いが通ろうとする。それでぶつかったら道が狭いからというのが日本。フランスではそれを見捨てて来るのが失礼であって、狭ければ待っている」(在仏日本人・女性・20代)

ブラジル・フランス・アメリカでは、親しい人と他人の区別がはっきりしていて、個人のスペースというものが存在し、身体的接触についての認識が、その区別によって異なる傾向が見られる。一方、韓国とベトナムの身体的接触の受け止め方は、以下に述べられる

ように、これとは異なるものである。

- 「韓国では、女の人同士が手をつないだり男の人同士で肩を組んだりする。だんだん親しくなってきた人が歩いている時、手を取ろうとする」(在韓日本人・女性・20代)
- 「韓国人に話しかけるとすごく近くに寄られる。どんどん入ってくる。距離が近いのは気にしない」(在韓日本人・女性・30代)
- 「電車の椅子に座るのに、10人掛けでも韓国では11人くらい座る。少しでも間があれば座るが、日本では8人くらい」(韓国人・女性・30代)
- 「ベトナムでは触ることが普通なのであまり緊張しない。日本人同士は触っていない。男性と男性、女性と女性で絶対しない。ベトナムでは男性と男性でも親しくなりたいから触る。日本で、話しながら相手に触りたいと思うが、日本人はすぐに逃げる。」(ベトナム人・男性・30代)
- 「ベトナムでは親しみを表現したければしたいほど相手の体を触りながら話す。背中、膝、足、手等。立っているときも座っているときも同様」(在越日本人・女性・30代)
- 「椅子に座るとき、二人が同じ向きになり、一人の膝の上にもう一人が乗り、乗せた方は腕を回して相手を抱いて座る。話している最中も接近してくるので、行き場がなくなる」(在越日本人・女性・40代)

ここでは身体的な接触が、親しさを表現するという機能を果たしていると思われるが、挨拶など、限定された場面での接触ではないところが、ブラジル・アメリカ・フランスの欧米3カ国とは異なっている。また、韓国・ベトナムはこれらの国と比べると、親しい人と他人の境ははっきりせず、他人との接触を気にしない傾向が見られる。

- 「接触されることをあまり気にしない。赤の他人でも通るとき、肩が邪魔だとかいうときも平気で何も言わないで触ってくる。それが当たり前」(在越日本人・女性・20代)
- 「韓国ではどんどん人がぶつかってくるし、バスの吊革を他の人が掴んでくる」(在韓日本人・男性・30代)
- 「バイクでよくぶつかっているのを見るし、自分もぶつけられたりぶついたりするが、その時のお互いの反応がニコニコで済む場合が非常に多い。自転車をぶつけることによって止めている人もいる。この国では気持ちのいいあり方なのかなと思う。本当に深刻な問題であれば謝ってもらいたいというのはもちろんあるにしても、接触自体が深刻な問題になりえない国なのかもしれない」(在越日本人・男性・30代)

ブラジル人・アメリカ人・フランス人からは、日本人は身体的接触が少ないとコメントされ、日本人自身は韓国人・ベトナム人について、接触することが多い、気にしないと報告しているところから、日本人の身体的接触についての考え方は、欧米3カ国と韓国・ベトナムの中間あたりに位置すると考えられるが、親疎による対人的な距離については、親しい人とは距離をとり、他人との距離は気にしないとのコメントもあり、別の要素も関わっているようである。

- 「日本では知っている者同士ではしないが、知らない同士だったら平気でぶつか

る」(アメリカ人・女性・30代)

- 「日本ではアメリカより親しい相手にでも触らない」(アメリカ人・女性・20代)

(2) 気をつけるか否か

ぶつかりが起こりそうな時に、前もってどのくらい気をつけるかについては、以下のコメントがあった。

- 「{韓国人は} 市場でカートでぶつかってくる。ちょっと待ってくれたらスムーズに行くようなところを、強引に勢いよく押してくる。元気なときはこんなもんだと思ってすますが、機嫌の悪い時などは文句を言ったこともある。相手はヘラヘラ笑っていた。なぜ怒るのかわからない、といった感じだった」(在韓日本人・女性・40代)
- 「韓国人は相手とぶつからないように自分の進路を変えるということはないが、直前でちょっと交わしている。だからかなり近い距離ですれ違う。かなりのカルチャーショック。気を遣うのが苦手」(日本人・男性・30代)
- 「ベトナム人は体が触れたり押されたりして初めて自分が邪魔なのだ気がつく。押し方で喧嘩になる。ぶつからないように歩こうという気持ちは全くない」(在越日本人・男性・40代)

(1) の対人的距離のところ、フランス人は細い道であれば相手が通るまで待っているというコメントがあったが、上記の韓国での例はちょうどこれと反対の行動である。

また、ぶつかりが起こった後のことについては以下のコメントがある。

- 「ブラジル人は足をちょっと踏んだくらいは気にしない。{日本のように} ガンを付けられたとか、肩が触れて袋叩きにあったとかは考えられない」(在伯日本人・男性・50代)

また、一定の空間の中で場所をしめることに関して、日本人との感じ方の違いについて述べたコメントもある。

- 「{フランスでは} ラッシュの時どうするかというと、自分は動かない。いくら人が多くても自分はここにいるのだから、他人がよけるのが当たり前だと思っている。日本人は本能的にすすすとよけてしまう」(在仏日本人・女性・40代)
- 「{フランス人は} 電車の向かい合わせの席で、狭いのに足をどんと出していたりする。それについては全く平気。人に当たると気づくみたいでやめる。組んでいる本人は気にしない」(在仏日本人・女性・40代)

(3) 男女による違い

以下のように、男性は女性には謝るが日本ではそれが無い、男女による対応の区別はないというコメントも見られた。

- 「ブラジルでは男性が女性の足を踏んだときは「ア、ゴメンナサイ」と柔らかい言葉で謝るが、男性同士だったら謝らない」(ブラジル人・女性・20代)
- 「日本は男性が気をつけない。フランスの男性は女性に対して気をつけている。女性にぶつかったら謝る。日本はしない」(フランス人・女性・50代)

(4) 場所による違い

同じ身体的接触であっても、行列や電車の中などの場所による違いについて述べたコメントもあった。

- 「日本と逆だなと思うのは、フランスだと列を作るときぴったりと並ぶ。もっと間を開けてほしい、近くに寄ってこないでほしいと感じる。しかし、ぶつかる時の距離はフランスの方がちゃんと感じていると思う」(在仏日本人・女性・20代)
- 「エレベーターでは、日本だとぎゅうぎゅう詰めで乗るが、韓国ではある程度乗るとそれ以上乗らない」(日本人・女性・30代)
- 「込み合った電車の中では日本人は気にしない。マンションなど自分に近い所では気にする。フランスでは状況による違いはない」(フランス人・女性40代)
- 「話すときは日本人は少し多く距離を取る。歩いている時は日本人は非常に近い。建物の中でも同じ」(アメリカ人・男性・30代)

(5) 接触が起きた場合の対応の違い

ぶつかりが起きたときに口論や喧嘩になるかどうかには日本との違いがあるとしたコメントもあった。

- 「車同士で片方が後ろからぶつかった場合、日本ならぶつかった方が悪いという認識のもとに双方話をするが、韓国ではまず「お前が悪い」と互いに主張するところから始まる。歩いている人にぶつかって何か言われても、カチンとくれば、そこを歩いていたお前が悪い、別に大丈夫じゃないか、と反応する場合もあるかもしれない。韓国は自己中心型。日本は相手とのトラブル回避型。韓国人同士はちょっとぐらいぶつかっても互いに気にしないのだろう」(在韓日本人・男性・30代)
- 「ベトナムではぶつかった時に喧嘩をする。日本では見たことがない。日本人はぶつからないように気をつけている」(ベトナム人・男性・20代)
- 「ベトナムで、ぶつかった方が文句を言うのを初めて経験した。日本ではないことなので、そういう考え方もあるのだなとびっくりした」(在越日本人・男性・20代)

II.1.2.7. 残された問題

以上、見知らぬ人とぶつかった際の行動について見てきた。ここではおもにグループによる比較を行ってきたが、年齢や性別、滞在年数、接触度等による詳細な比較分析も今後必要であろう。

また、例えば、当該国でぶつかった時に「何もしない」と回答した人が、ビデオの場面の印象を適当と見るかどうか、日本と当該国の行動に違いがあると感じているのかなど、質問項目間での集計分析も必要であるが、今回は行うことができなかった。

被調査者から得られたコメント部分には、さまざまな分析の可能性が含まれている。異文化と接触したときにそれをどのように受け止め、自己の中で消化していくか、もしくは

反発するのかといったことに関するコメントを、現地の人との接触度や滞在年数、どのような目的でその国に滞在しているか、などの視点から見ていくことも必要であろう。

なお、前章で生越が述べているように、ぶつかるのはよくないこと、したがってぶつかった場合には、丁寧な謝罪をするほうがよいという、ある種ユニバーサルな規範意識の存在について考慮しておく必要性を感じた。これがユニバーサルなものとして認識されている場においては、ぶつかるのは普通のこと、したがって気にしないし、謝ることもないという論理は、その正当性を説明することが難しくなる。在韓・在越日本人の、韓国人・ベトナム人の行動についての見方が、とくに何もしない、謝まらないなどと厳しい一方で、韓国人・ベトナム人の母国での行動意識が、丁寧な言葉で謝る等、丁寧な方向に動く傾向があることを考え合わせると、生越の言うところの「責める方の回答は、謝罪や応答をしないことを強調する回答へ、責められる方の回答は、謝罪や応答をすることを強調する回答へ傾きやすい」という心理が、ここにも現れていると思われる。このことは、異文化間の行動比較を行う際には特に考慮すべき問題であろう。

また、「場面1」の謝罪に関連する質問項目のうち、1.1.2., 1.2.2., 1.2.4., SUB1 (2), 1.2.4. SUB3.については、今回は分析の対象としなかった。いずれも今後の課題としたい。

<注>

- 1.ここでいう在日外国人とは、調査の対象とした、対照国生まれで、現在日本に滞在している外国人のことを指す。在日アメリカ人、在日韓国人などのグループの名称についても同様である。
- 2.回答は、「Excusez-moi」のみが語形として挙げられている場合と、他の語形と一緒に挙げられている場合とがある。「Excusez-moi」「Pardon」「Je suis désolé」は、それぞれが謝罪を表す決まり文句であるが、被調査者が、「Ah, Pardon Excusez-moi」「Je suis désolé Excusez-moi」などのように、これらをいくつか重ねて答えた場合、謝罪の言葉の例をいくつか挙げたのか、それともひとかたまりの言葉として、それらすべてを言うのかについては不明である。おそらく両方のケースがあると思われるが、今回の調査では確認をしていない。いずれにせよ、ぶつかった際に「Excusez-moi」という決まり文句を使用する割合は、調査の対象となった在日フランス人では非常に高いと見てよい。なお、④との複数回答のうち、①は「20歳以下の若い人には」、③は「年齢が若い人だったら」という相手の年齢に限定した回答であった。

<参考文献>

- 西原 鈴子他 (1994) 「在日外国人と日本人の言語行動的接触における相互『誤解』のメカニズム」平成5年度文部省科学研究費補助金研究成果報告書
- 新プロ「日本語」第2班 国立国語研究所チーム (1999)
「ビデオ刺激による言語行動意識調査報告書 資料編」
文部省科学研究費「国際社会における日本語についての総合的研究」研究成果報告書
- 尾崎 喜光 (1999) 「日本語社会における言語行動の多様性」
文部省科学研究費「国際社会における日本語についての総合的研究」